

# 聖徒の道

2

1996



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

# 聖徒の道

1996年2月号



表紙——表紙の絵は、「絶えず祈りに心を配る」(アルマ34:39)ようにというアミュレクの熱心な勧めをテーマに描かれている(本誌「神に叫び求めなさい」p.34参照)。表紙「祈りをささげる姉妹」絵/ラリー・ウインボグ、裏表紙(上)「祈り」絵/A. D. ショー、(下)絵/キース・ラーソン

こどものページ——この絵の中に何匹の動物がいるでしょう。この絵を描いた画家のスタンレー・W・ガリは、こんな題をつけています。「神は言われた。「地は生き物をいませ。」(創世1:20-25参照)

## 一般

大管長会メッセージ——ジョセフ・スミスと『モルモン書』 第二副管長ジェームズ・E・ファウスト	2
「栄光に満ちた記録」 ロバート・L・ミレー	14
わが足のともしび カルメン・ロドリゲス・デ・フーエンテス	22
末日聖徒の父親のために キム・クレンショー・ソレンセン	28
「神に叫び求めなさい」	34
奉仕の手 ボニー・ハンソン・ケリー	45

## 青少年

ニーファイの心を知りました イアン・サンダース	10
実験 ハイディ・ハリス	13
もう恐れませんか オコロ・オニアブーチ	21
質疑応答——恋愛ドラマは有害なのでしょうか	25
実りある聖典研究のアイデア リサ・M・グローバー	40
二人の時間 トレーシー・バランド	42
神殿での奉仕 ローリー・リブシー	46

## 定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——イエス・キリストに従う信仰	33

## こども

モルモン書物語——大さばきつかさ、ころされる	2
なくした指輪 リンダ・リー・テニー作	7
小さなお友だちへ——ニール・A・マックスウェル長老	10
分かち合いの時間——天のお父さまのあい カレン・アシュトン	12
ちいさなみんなのために——ジェーミーのお話 アン・ウィング	14
おもちゃばこ	16

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
十二使徒定員会：ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴーズリンド  
顧問：スペンサー・J・コンデュー、L・ライオネル・ケンドリック

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー

工程管理：マリアン・マーティンデル

出版補佐：ベス・テラー

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・バン・カンペン

デザイナー：シェリー・クック

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグ

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道1996年2月号第40巻第2号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

Copyright © 1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1994年8月 翻訳承認—1994年8月 原題—International Magazines February, 1996, Japanese, 96992300

●定期購読は、「『聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部

総務課へご送金いただければ、直接郵送いたします。

●『聖徒の道』のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部総務課 ☎03-3440-2351(代表)

●『聖徒の道』の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●『聖徒の道』のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部総務課 ☎03-3440-2351(代表)

霊的な力

『ソンドエボ』(韓国語版。「聖徒の友」の意)は大きな霊的な力を与えてくれます。大管長会メッセージには生ける預言者の言葉が載っていて、これを読むと、真理を固く守る助けになります。イエス・キリストの福音に従って生活している世界中の聖徒たちの記事を読むと、戒めを従順に守って生活している彼らの模範に力づけられます。また、犠牲を払って隣人を助けている教会員の記事に、感動します。

教会での話の責任やレッスンの責任を受けるとき、靈感あふれるメッセージを引用します。神の子供たちのために与えられた主の計画の中で、この機関誌が大きな働きをしていることに感謝しています。

韓国, 光州ステーキ, 農城ワード  
吳玉姫

わたしのために書かれたような記事

改宗する前には、わたしは小説や雑誌をよく読んでいましたが、霊的なものは何も得られませんでした。しかしバプテスマを受けた後、『レトワール』(フランス語版。「星」の意)の「わたしのもて来なさい」を読むと、まるで自分のために書かれたような気がしました。その記事を読むようにという御霊の勧めがしばしばあったのです。そのとき以来、この世的な本や雑誌には興味なくなりました。

機関誌は毎月欠かさず読んでいます。特に世界中の聖徒たちからの記事や証を読むのが好きです。皆さんの証により自分の証が強められるからです。

教会の機関誌を、皆さんも読んで活用することをお勧めします。生活を正し、御霊を感じるができます。

ザイール, マシナ・キンシャーサ地方部

ケンスーカ第1支部

ボクタ・B・ルイソン

二つの祝福

わたしはコロンビア出身で、現在はカナダのノーバスコーシャという所に住んでいます。このワードでスペイン語を話すのはわたし一人だけです。そんな折、スペイン語を話す宣教師がワードに召されて来たのです！わたしがどんなにうれしかったかお分かりでしょうか。その長老は何とコロンビア出身で、また『リアホナ』(スペイン語版)を持って来てくれました。福音についての記事を母国語で読めるという大きな祝福を、天父は与えてくださったのです。

カナダ, ノーバスコーシャ・ダートマスステーキ, ダートマスワード  
リヒア・アングーロ

価値ある宝

わたしは21歳の大学生で、小学校の教師になる勉強をしています。少女のころから『リアホナ』(スペイン語版)を読み、すべてのメッセージや話により証が強められてきました。この機関誌は光と知識の価値ある宝だと思います。すべてのすばらしい記事を、主に感謝します。

救い主が生きていらっしゃることを知っています。主がわたしに示してくださる大きな愛を感じます。機関誌のページをめくる度に主の声を聞き、それに従うとき、主の愛と優しさはもつと確かなものになります。

メキシコ, ヌエバロシータ地方部

サビナス第1支部

サンドラ・マリベル・ロベス・ピラルアル



# ジョセフ・スミスと 『モルモン書』

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

ジョセフ・スミスと『モルモン書』は、主イエス・キリストの末日の業の中心を成しています。ジョセフ・スミスとその働きは、『聖書』と『モルモン書』の中で預言されていました。エゼキエルの偉大な預言はこう告げています。

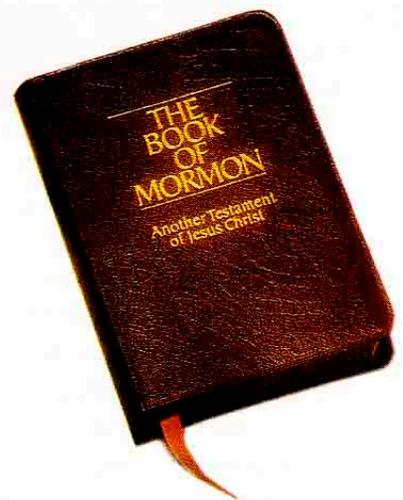
「主の言葉がわたしに臨んだ、

『人の子よ、あなたは一本の木を取り、その上に「ユダおよびその友であるイスラエルの子孫のために」と書き、また一本の木を取って、その上に「ヨセフおよびその友であるイスラエルの全家のために」と書け。これはエフライムの木である。

あなたはこれらを合わせて、一つの木となせ。これらはあなたの手で一つになる。』」（エゼキエル37：15-17）

『聖書』と『モルモン書』は今、一つとなってわたしたちの手の中にあります。ニーファイ人のことを示現で見たエジプトのヨセフは、ジョセフ・スミスと『モルモン書』の出現についてこう預言しました。

「ヨセフはまことに証して言った。『主なるわたしの神は、一人の聖見者を立てられる。それは、わたしの腰から出た者のためのえり抜きの聖見者である。』」



なぜ『モルモン書』はわたしたちの宗教のかなめ石なのでしょう。それは、『モルモン書』がわたしたちの歴史と神学の中心を成すものだからです。この神権時代の指針となる書物なのです。

『そのために、あなたの腰から出た者は書き記す。またユダの腰から出た者も書き記す。そして、あなたの腰から出た者が書き記すものと、ユダの腰から出た者が書き記すものは一つに合わされて、偽りの教義を打ち破り、争いを鎮め、あなたの腰から出た者の中に平和を確立し、また末日に先祖についての知識を彼らに与え、そしてまた、わたしの聖約についても知らせる。』主はそう言われる。

『その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取って付けられる。そして、彼はわたしのようである。主が彼の手により、主の力によってもたらされるものが、わたしの民を救いに至らせるからである。』(2ニーファイ3:6, 12, 15)

『モルモン書』の翻訳の過程は、ジョセフ・スミスにとって教育の場でした。主から召しを受けたとき、ジョセフは年若く、学問もなく、この世の標準からすれば無知でまったく平凡な人物でした。もちろんこれは、パウロが聖文の中で述べている方式に合致するものです。「それなのに神は、知者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選……ばれたのである。」(1コリント1:27)ブリガム・ヤング大管長は、主の僕として働く人々に欠かすことのできない資質について次のように述べています。「生来の判断力は備えているものの、ほかには忠実さと謙遜さだけがとりえで、知識と力は主に願ひ求めるしかないという人がいたら、……わたしは学問のある人よりもそのような人の方を取る。」(*General Church Minutes, 1839-1877* 『教会一般事項議事録, 1839-1877』1859年10月23日付け, p. 2)

とはいえ、謙遜で学問がなく、何でも受け入れようという姿勢の人にも教師は必要ですし、自分への神の御心を知るための手段も持っていなければなりません。ジョセフ・スミスの場合にも、このことが当てはまります。ジョセフにとっては、御霊が教師であり、『モルモン書』の翻訳が授業でした。ニューヨーク州出身のこの学問のない若者は、『モルモン書』の翻訳の過程を通して、回復の預言者としての召しに欠かすことのできない事柄を教わっていったのです。『モルモン書』が「わたしたちの宗教のかなめ石」(*Teachings of the Prophet*

*Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.194)であるように、「翻訳の過程は預言者ジョセフ・スミスの教育のかなめ石」でした(ロン・エスプリン、著者への私信より、1987年6月2日付け)。

『モルモン書』は預言者ジョセフにとって、福音の教義を理解し、回復における自身の役割を知るうえで中心的な存在でした。確かに最初の示現は、少年ジョセフに自らの特別な責任について知らせるものでしたが、それを完全に理解することができたのは、唯一『モルモン書』の翻訳を通してでした。ジョセフの預言者としての務めは、4年の歳月をかけて明らかにされていきます。それまでの間、彼は『モルモン書』の版を受け取ることさえできませんでした。『モルモン書』を翻訳するという務めに対して確認が与えられたのは、恐らく版を受け取って、その記録を今の時代の人々に伝えよと命じられた後だったでしょう。

主は若きジョセフにこう言われました。「あなたは版を翻訳する賜物を持っている。これは、わたしがあなたに授けた最初の賜物である。そしてわたしは、これによってわたしの目的が達せられるまで、ほかの賜物を求めてはならないと命じた。これが終わるまで、わたしはあなたにほかの賜物を授けないからである。」(教義と聖約5:4)主は、翻訳する賜物はそれ自体は筆紙に尽くし難い重要な賜物ではあるものの、ジョセフに授けられる賜物のうちの最初のものにすぎず、翻訳が完成した暁にはほかの賜物や務めを続いて授ける、と明言されたのです。

こうしてジョセフ・スミスは、『モルモン書』の翻訳と出版を終えた後に預言者としての数々の使命を託されますが、興味深いのはその速さです。神権の権能と福音の教義の多くは、翻訳中に回復されました。翻訳が完了すると、時を待たずして最初の宣教師が派遣され、教会が設立されました。このことから得られる結論は、『モルモン書』はジョセフ・スミスの預言者の外套を織るために、また時満ちる神権時代の回復の基礎を築くために必要であったということです。

若きジョセフ・スミスは、『モルモン書』を世に出す過程で、回復の預言者となるために学ばなければならぬことを一つ一つ身に付けていきました。しかし、翻訳



『モルモン書』の翻訳の過程は、ジョセフ・スミスにとって教育の場でした。バプテスマについてさらに深い知識を求めたジョセフ・スミスとオリバー・カウドリのもとをバプテスマのヨハネが訪れ、福音の基本的な儀式である水に沈めるバプテスマを互いに施し合うように教えました。

を終えた後も、ほかの務めや経験を通してジョセフへの教育は続きました。こうして、ジョセフの自らの務めに対する理解の心が大きく開かれていきました。確かにジョセフは、カートランド神殿の奉獻と、教義と聖約第110章に記された示現を通して、多くを学んだことでしょう。しかしながら、『モルモン書』にかかわる業は、主の業を前進させるために欠かすことのできない土台だったのです。『聖書』のヤコブの手紙の中の「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」(1：5)との勧めの言葉は、救いと理解を求めていた

ジョセフを聖なる森に駆り立てました。同様に、『モルモン書』の中の、信仰、悔い改め、バプテスマについての力あふれる言葉も、神に対する新たな探求へとジョセフを導きました。そして、その探求は豊かな実をもたらします。バプテスマのヨハネの訪れ、神権とその鍵の回復、エリヤをはじめとする天の使いの訪れです。

わたしたちは、預言者としてのジョセフ・スミスと『モルモン書』に対して、さらに大きな攻撃が加えられることを予期しています。サタンは回復の核心に対して、またわたしたちの信条に対して攻撃を仕掛けてきます。つまり、預言者ジョセフ・スミスとその神聖な使命に対してです。公平な物の見方をする人ならだれでも、ジョセフ・スミスが靈感を受けて行った業の数々が、彼を偉大な預言者と称して余りあるものであることに同意するのではないのでしょうか。彼が完全な形で回復した事物の歴史的事実について学者たちが研究すればするほど、ジョセフの使命の偉大さが浮き彫りになってきます。

わたしたちはジョセフ・スミスに対して、救い主と同等の完全さを求める必要はありません。ジョセフが生身の人間であったことはかえって強さとなり、彼の信頼性を高めています。ジョセフは自分が完全だとは一度も言

ったことがありませんでした。ですからわたしたちも、彼が主張しなかったことを追求してはならないのです。ジョセフは、自分が感情と不完全さを備えた一介の人間であることを承知しており、そのうえで、神から託された使命を正直に果たそうとしていました。1842年10月29日にノーブーに到着した教会員への勧告の中で、ジョセフは自分自身をこう表現しています。「わたしは彼らに、自分がただの人間であり、わたしに完璧さを求めてはならないと言った。もし彼らがわたしに完璧さを期待するならば、彼らにも完璧さを求めなければならない。同じように、彼らがわたしの不完全さや幹部の兄弟たちの不完全さに耐えてくれるなら、わたしも彼らの不完全さに耐えよう。」(History of the Church 『教会歴史』 5 : 181)

主の愛にあふれた叱責しっせきをありのままに記録していることに見られるジョセフの完璧なまでの公平無私な心は、彼が私心があって書き記しているのではないことを物語っています。教義と聖約第5章21節はその一つの例です。「さて、わたしはあなた、すなわちわたしの僕ジョセフに命じる。悔い改めてわたしの前をさらにまっすぐに歩み、これからはもう人々の説き伏せに乗ることのないようにしなさい。」

人は、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、『モルモン書』がキリストについてのもう一つの証であることへの少なくとも初歩的な証が得られるまでは、改宗への道を実に歩みだしたとは言えないでしょう。さらに言うならば、わたしたちの教会には幾つかの絶対的な真理があり、教会員はこれを受け入れ、宣教師はこれを教える必要はありません。絶対的真理とは次に述べる事柄です。

1. イエスがキリストであり、救い主であり、贖罪を通して全人類の贖い主となられた御方であること。

2. 神の預言者であるジョセフ・スミスを通して、イエス・キリストの福音が完全な形で回復されたこと。

3. 『モルモン書』がイエス・キリストについてのもう一つの証であること。

4. ジョセフ・スミス以降のすべての大管長が、ジョセフ・スミスを通して回復された鍵かぎと権能を継承してきたこと。

5. ゴードン・B・ヒンクレーが現代の世の人々に対する預言者、聖見者、啓示者であること。

『モルモン書』のメッセージは「御言葉」とも呼ばれます。アルマは御言葉を一つの種にたとえました。改宗した人の心に植えられた種は彼らの心の中でふくらみ、心を広げ、理解力に光を注ぎます(アルマ32:28参照)。御言葉と御言葉へのわたしたちの信仰は階段のようなものです。『教義と聖約』にはこうあります。

「主の言葉は真理であり、また真理であるものはすべて光であり、光であるものはすべて御霊みたま、すなわちイエス・キリストの御霊だからである。

御霊は世に来るすべての人に光を与え、また御霊はその声を聴く全世界のすべての人を照らす。」(教義と聖約 84:45-46)

末日の主の業における『モルモン書』の重要性は、いかに強調しても、しすぎることはありません。かつてデビッド・O・マッケイ大管長は、1881年に生地スコットランドで伝道するように召された父、デビッド・マッケイ監督の話を紹介しました。マッケイ大管長の父親は偉大な働きをなし、やがてグラスゴー地区を管理するようになりました。その年、イギリスでは迫害がひどく、福音を教えようとする者だれもが背を向ける有様でした。人々の間には、わたしたちの信仰とその起源に対して悪感情が起こっていました。ジョセフ・スミスの名前を出すだけで、人々は敵対心をあらわにしました。そのような状況にあった父親のことを、マッケイ大管長はこう述べています。

「ある日父は、その地方の人々に近づく最も良い方法は、ただ簡単な原則だけを説くことだと心に決めました。主イエス・キリストの贖罪、それに福音の第一の原則だけにして、回復については証を述べないという方法です。しかし、1か月余りすると陰うつでやる気のない状態にさいなまれ、御霊を得て業を行うことが不可能になりました。彼自身、どこが悪いのかは分からなかったのですが、心にわだかまりがあるのです。気分は重苦しくなり、何かに抑圧され、妨害されているような状態でした。この抑圧はそれから取り去られることなく、父に重くのしかかってきました。ついに父は主のもとに行き、こう申し上げました。『この気持ちから抜け出せなければ、



わたしたちは『モルモン書』がイエス・キリストについてのもう一つの証であること、神からの使いであるペテロ、ヤコブ、ヨハネがジョセフを通して回復した鍵と権能を、ジョセフ・スミス以降のすべての大管長が継承してきていることを、絶対的な真理として受け入れなければなりません。

家に帰らなければなりません。このような落ち込んだ気持ちでは御業を行うことはできません。』

この抑圧された状態はその後もしばらくの間続きました。眠れぬ夜を過ごしたある日の夜明け前、父は海の近くの洞穴へ行こうと決意しました。そこは外界から完全に遮られる場所で、そこで父は全身全霊を神に注ぎ、なぜ自分はそのように抑圧された気持ちにならなければならないのか、自分は何をしたのか、今の気持ちを払いのけて御業を続けるにはどうしたらよいのかを尋ねようと思ったのです。父は暗がりの中を洞穴に向かって歩きだしました。しかし、はやる気持ちから、足の方は走りだしていました。……何かが父を駆り立てていました。

救いが必要でした。父は洞穴に入りました。そこはまさに、外界から閉ざされた場所でした。父はこう言いました。『おお、父よ。この気持ちを取り去るにはどうしたらよいのでしょうか。この気持ちが去らなければ、御業を続けていくことはできません。』そのとき、父は声を聞きました。わたしが今話しているような声を聞いたのです。『ジョセフ・スミスが神の預言者であることを証しなさい。』父はそのとき、6週間余りに自分がやむなく決心しなければならなかったことを思い出しました。そして、主の言葉が心を駆け巡るうちに、父はすべてを理解できたのです。父は特別な使命を受けてその地に送られました。しかし、その特別な使命をおろそかにしていたのです。父は心の中でこう叫んでいました。『父よ、それで十分です。』そして洞穴を出ました。』

マッケイ大管長はこう続けています。「父のことを知っておられる皆さんは、父がその後どのように使命を果たしたか御存じです。」(Cherished Experiences from the Writings of President David O. McKay 『デビッド・O・マッケイ大管長の著作からの珠玉の体験集』クレア・ミドルミス編, pp.11-12)

エズラ・タフト・ベンソン大管長も、1923年にイギリ

スのサウスシールズで伝道していたときに同じような経験をしました。こう語っています。

「わたしたちは断食をし、求道者の心をとらえることだけを話せるようにと誠心誠意祈り、聖餐会へと臨みました。同僚がまず福音の第一の原則について話し、次にわたしが背教について話すように準備していました。

会場は満席で、御霊に満ちていました。まず同僚が実に霊的な話をし、次いでわたしが話したのですが、それまでに一度も味わったことのないような自由な気持ちで話すことができました。ところが席に着いたわたしは、背教のことには触れていないことに気づきました。わたしはジョセフ・スミスについて語り、彼の使命が神から授けられたものであること、そして『モルモン書』が真実であることを証していたのです。集会の後で教会員でない人が何人か来てこう言いました。「今晚わたしたちは、あなたの教会が真実の教会であるとの証を得、バプテスマを受ける備えができました。」(Ensign『エンサイン』1987年7月号, pp. 8-9)

かなめ石はアーチを支える石です。かなめ石がなければアーチは崩れてしまいます。なぜ『モルモン書』はわたしたちの宗教のかなめ石なのでしょう。それは、『モルモン書』がわたしたちの歴史と神学の中心を成すものだからです。この神権時代の指針となる書物なのです。『モルモン書』の翻訳と出版よりも優先順位の高いものはありませんでした。『モルモン書』の出版が完了するまで、ほかのすべての事柄は差し止められました。使徒も召されませんでした。教会が設立されたのは、『モルモン書』出版後10日目のことです。『モルモン書』の出版は伝道の業にも先駆けるものでした。教会初の宣教師として召されたサミュエル・スミスが伝道に出るとき、『モルモン書』を携えて行く必要があったからです。『教義と聖約』の第17章と第20章には、『モルモン書』が翻訳されて初めて、幹部の兄弟たちがこの末日の業が神の業であることを完全に理解できたと書かれています。

わたしも若い宣教師の一人として、ジョセフ・スミスの預言者としての使命と、『モルモン書』が伝道の業に欠かせないものであることを学びました。今から半世紀も前のことですが、ウィリアム・グラント・バンガーター長老とリン・A・ソレンセン長老、それにわたしの

3人は、ほかの献身的な若人とともに、ブラジルでの伝道の業の開拓者として働きました。当時の1年間の改宗者数はわずか3人でした。しかし1986年には、この同じ国で2万2,109人が改宗しています。そして今、ブラジルには100以上のシオンのステークがあります。バンガーター長老とわたしが同僚として御業に携わり、最初の教会員を誕生させた町には、今や5つのステークが組織されているのです。

当時と今とでは何が違うのでしょうか。初期のころはなぜそれほど困難で、今はこのように実りがあるのでしょうか。その大きな要素は、当時は聖文が『聖書』しかなかったからです。『モルモン書』について語られるとすれば、わたしたち自身のおかしな発音で述べられた証からだけでした。サミュエル・スミスの場合と違い、興味のある人のもとに残してくる『モルモン書』はありませんでした。ポルトガル語の『モルモン書』が出版されて初めて、偉大な改宗の刈り入れが訪れたのです。主は、「彼らが悔い改めて、新しい聖約、すなわち『モルモン書』(教義と聖約84:57)を思い起こさなければ、この時代の人々は罪に定められると断言されました。

教義と聖約第135章でジョン・テラー長老は、1844年6月27日にイリノイ州カーセージで起きた預言者ジョセフ・スミスと大祝福師ハイラム・スミスの殉教について次のように記しています。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」(教義と聖約135:3)

ジョセフの名を口にしてこの世を去った実践の賢人ブリガム・ヤングはこう語りました。「わたしはジョセフ・スミスの名を敬意をもってほめたたえます。わたしはその名が呼ばれることを好み、その名を愛します。また、ジョセフの語った教えを愛しています。……わたしは、主がお立てになった預言者ジョセフ・スミスを知ることができたことを考えると、いつも『ハレルヤ』と叫びたい心境に駆られます。……わたしは堂々として申し上げます。イエス・キリストを除いて、この地上に過去に生を受けた人、そして今生を受けている人の中で、彼に勝る人はいないでしょう。わたしはそれを証しま



『モルモン書』の翻訳は、「人の子らのためにわたしの義にかなった目的を達する」(教義と聖約17:9)という主の計画にとって不可欠のものでした。こうして、『モルモン書』出版の10日後に教会は設立され、福音のメッセージが世の人々に伝えられることとなったのです。

す。」(Discourses of Brigham Young 『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウィットソー編, pp.458-459)

わたしたちも皆、このような証し人となることができるように願っています。わたしたちの人生そのものが、回復されたイエス・キリストの福音への証あかしとなりますように。また、わたしたちの証が、史上最も偉大な預言者ジョセフ・スミスと、彼によってこの世にもたらされた『モルモン書』について、権威と権能と確信の音を鳴り響かせるものとなりますように。ジョセフへの主の次の言葉は成就したのです。

「地の果ての人々があなたの名を尋ね、愚かな者はあ

なたをあざ笑い、地獄はあなたに激怒するであろう。

一方、心の清い者と、知恵のある者と、高潔な者と、徳高い者は、絶えずあなたの手から助言と権能と祝福を求めよう。」(教義と聖約122:1-2) □

#### ホームティーチャーへの提案

1. ジョセフ・スミスと『モルモン書』は末日の主の業の核心を成す。

2. 『モルモン書』翻訳の過程はジョセフ・スミスにとって教育の場であった。また、『モルモン書』は預言者ジョセフにとって、福音の教義を理解し、回復における自らの役割を知るうえで中心的な存在であった。

3. 人は、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、『モルモン書』がキリストについてのもう一つの証であることへの少なくとも初歩的な証が得られるまでは、改宗への道を確実に歩みだしたとは言えない。

4. 『モルモン書』は、わたしたちの宗教のかなめ石である。なぜなら、『モルモン書』がわたしたちの歴史と神学の中心を成すからである。

14 歳になったばかりのころ、監督からセミナーへの登録を勧められました。あいにくわたしは、中等教育履修証明試験として知られる厳しい試験の真っ最中でした。イギリス（わたしはマンチェスターに住んでいます）では、これをGCSEと呼んでいます。つまり、試験、宿題、模擬試験、研究課題、テスト、実験の嵐に突入したばかりのわたしを、監督はセミナーに誘ったのです。

このような状況からして、セミナーに対するわたしの態度は、「無気力」という言葉がぴったりでした。兄と同じクラスで勉強できるというので最初は楽しみにしていましたが、それもすぐに薄れました。自分にとってセ

ミナリーがどんなに大切か分かり始めたのは、『モルモン書』が真実かどうか確かめようと決心してからでした。

コースの初めに、モロナイ書第10章4節が今年度のセミナーでは鍵の聖句となる、と教えられました。わたしはその聖句に赤と緑で印を付けました。このとき、『モルモン書』が真実かどうか、天父に特別な啓示を願って求めるよう促す気持ちを感じました。

天父と話すためにベッドの傍らにひざまずいたとき、自分が十分に準備できていないことに気づきました。『教義と聖約』の中で、主がオリバー・カウドリに「あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた」（教義と聖約9：7）

## ニーフアイの 心を 知りました

イアン・サンダース



と語られた一節を思い出し、自分も同じことをしている  
と思いました。そして祈っても、自分が主に尋ねるのは  
よいことだという気持ち以外何も感じず、祈りの答えを  
受けたとは思えませんでした。わたしは、『モルモン書』  
が聖文を記した書物なのか、それともただのよくてきた  
小説なのかを知るために、主がわたしに求めておられる  
ことすべてを果たす必要があると悟りました。

ある晩、家にいるのはわたしだけでした。宿題は終  
わっていたので、いつもならないそいとテレビの前に陣  
取ったり、SF小説を読みふけったりするのですが、そ  
の晩はどちらもする気になれませんでした。

衝動的に自分の部屋に行き、真新しい『モルモン書』

を手に取りました。ニーファイ第二書の中の、ニーファ  
イが生涯の最後に書いた章を探しました。

何となくこれらの章を大切な箇所だと感じたわたしは、  
読み始める前に短く簡潔に、「御霊がとも<sup>みたま</sup>にいてくださ  
るように」と祈りました。わたしはよくセミナーの  
レッスンが始まる前に同じように祈っていましたが、こ  
のときの願いにはもっと深い意味があるように思えまし  
た。読みながら聖文の言葉を心で感じ取らなければ、と  
思いました。そこで、自分自身に読み聞かせるようなつ  
もりで、声に出して読むことにしました。

1章、また1章と読み進めるうちに、まるでニーファ  
イが自分の民に語っている声がほんとうに聞こえてくる

1章、また1章と  
読み進めるうちに、  
まるでニーファイが  
「さて、わたしの愛する  
同胞よ……  
これらの言葉を聴き、  
キリストを信じなさい」  
(2ニーファイ33:10)  
と語る声が、  
ほんとうに  
聞こえてくるように  
感じ始めました。



ように感じ始めました。民に対するニーファイの愛を読んでいると、胸の内を注ぎ出して話す預言者としての言葉を痛感し、一つ一つの聖句には、生涯神に仕えた愛情深い彼の苦悩の叫びが込められていると感じるようになりました。第32章まで読むころには、ニーファイの言葉に浸り切り、突然彼がとても身近な人に思えてきました。ニーファイの言っている事柄はすばらしく、また義にかなっていませんでした。第33章を読み始めたとき、彼への共感で胸がいっぱいになりました。この預言者が昼夜を問わずどんなに民のために叫び続けたかを読み、あふれ出る涙をこらえられませんでした。わたしも彼とともに叫んだのです。そして、これらの言葉は『モルモン書』の中

で彼の語った最後の言葉であると切実に感じました。

わたしはのどを詰まらせ、目を潤ませながら、ニーファイの最後の証<sup>あかし</sup>を読み終えました。わたしは、胸の内に熱く燃えるものを感じました。それは、心の中にしっかりと根付いた知識によって燃える炎です。ニーファイは神の預言者であり、この世に生きた、実在の人物であったと、はっきり知ったのです。

『モルモン書』が神の言葉かどうかを知るために初めて祈ってから何週間もたった後、わたしはモロナイの約束の中の自分のなすべき分を果たし、証を得ました。そして、いつまでもこの証を持ち続けたいと願っています。□

わたしは、胸の内に  
熱く燃えるものを  
感じました。  
それは、  
心の中に  
しっかりと根付いた  
知識によって  
燃える炎です。  
ニーファイは  
実在の人であったと、  
はっきり知ったのです。



# 実験

ハイディ・ハリス

ILLUSTRATED BY CARY HENRIE

これまでわたしは、預言者の勧告に従うことにより幸福を得てきました。ですから、エズラ・タブト・ベンソン大管長が毎日聖文を読むように勧告されたとき、そのとおりにしたいと思いました。

しかしだんだん口実を設けるようになりました。宿題がたくさんあるので、今日はとても聖文の勉強まで手が回らないと思込むようになったのです。そういう日が何週間も、何か月も続きました。その間、良心の呵責にさいなまれ続けました。

ある晩、数学の宿題で頭を抱えていたとき、力を得られるようにひざまずいて祈りました。顔を上げて最初に目に入ったのは、鏡台の上の『モルモン書』でした。そしてそれを手に取ると、読み始めました。まだやらなくてはならない数学の問題が山ほどあるというのに、どうして読む気になったのかはよく分かりませんでした。ニーファイ第一書の一つの章を読み終え、わたしを悩ませていた数学の問題に再び取り組みました。すると、解けたのです。

わたしは従順になろうと決心し、『モルモン書』を毎晩読むことにしました。そして聖文を勉強する時間を取ることが、わたしの成績に何らかの影響を及ぼすかどうか、確かめることにしました。数週間後、この毎晩読むという習慣は、時間が幾分取られるものの、学習面の向上に役立つことが分かりました。もちろんそれでも勉強はしなくてはなりません。しかし『モルモン書』を読むことで、もっと頑張りが利くようになり、ほかでは得られなかった動機づけを得られるのです。そして勉強している事柄についてよく理解できるようになり、根気も出てきました。成績が上がっただけではなく、今までになく人とうまくやっていけるようになり、幸せを感じるようになったのです。

忙しい生活の中でもし助けが必要なら、皆さんもこの実験を試してみてください。生活に肯定的な変化が表れるでしょう。預言者は自分の語る言葉にどんな意味があるかよく御存じなのです。□



# 「栄光に満ちた記録」

『モルモン書』はよい気持ちを感じるのに  
役立つだけの書物ではありません。  
善い人物となるのに役立つ  
天の記録なのです。

ロバート・L・ミレー

**わ** たしたちは輝かしい時代の幕開けに立ち会って  
います。末日の預言者たちは教会とこの世に呼びか  
けています。この呼びかけは永遠の影響を与えずにはお  
きません。彼らは澄みわたった、確固とした声で、神聖  
な賜物<sup>たまもの</sup>を受けるようにわたしたちを招いています。長年  
の間、天来の賜物がわたしたちに差し出されていま  
したが、受けられなかった人もいれば、喜んで受けようとし  
なかった人もいます。この天来の賜物とは『モルモン  
書』のことです。

## 回復の教えに忠実に従う

この偉大な書物について語る時、預言者たちは度々、  
つらい聖句を引用しました。主は1832年にこう宣言され  
ました。

「不信仰のために、また自分の受けたものを軽々しく  
扱ったために、あなたがたの思いは過去に暗くなること  
があった。

この虚栄と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた。」(教  
義と聖約84：54-55)

ここで言われている「虚栄と不信仰」とは明らかに、  
神が授けてくださったものを軽々しく扱うことを意味し  
ています。「この罪の宣告は……」と、主は続けて述べ  
ていらっしやいます。「シオンの子ら、まことにすべて  
の者のうえにある。

彼らが悔い改めて、新しい聖約、すなわち『モルモン  
書』と、わたしが彼らに与えた以前の戒めを思い起こし、

そしてただ口にするだけでなく、わたしが記してきたも  
のに従って行動するまで、彼らは依然としてこの罪の宣  
告の下にある。」(同56-57節)

聖徒たちはこの時点ですでに、自分たちが受けたもの  
を重んじるように確実に指示を受けていました。例えば  
シェーカー派から改宗したばかりのリーマン・コプリー  
は次のように告げられました。「わたしの僕<sup>しもべ</sup>リーマンは、  
この業に聖任されなければならない。それは彼が、彼ら  
〔彼が属していた以前のシェーカー派の人々〕から受け  
たことに従ってではなく、わたしの僕であるあなたがた  
より教えられたことに従って彼らと論じるためである。  
そのようにすれば、わたしは彼を祝福しよう。そうしな  
ければ、彼は栄えないであろう。」(教義と聖約49：4、  
下線付加)

リーマン・コプリーは、自分がシェーカー派として学  
んだ事柄のうえに立って伝道するのではなく、末日聖徒  
として学んだ事柄に基づいて伝道する必要があったので  
す。その後の教会歴史には、この原則の持つ力が表れて  
います。パーリー・P・プラットは、ジョセフ・スミス  
とシドニー・リグドンが大勢の会衆の前で説教したとき  
のことを記しています。

ジョセフ・スミスが自分の見た示現、『モルモン書』の  
版を見いだして翻訳した経緯<sup>あかし</sup>について証するのを聞いた  
結果、フィラデルフィアとその近郊で大勢の人々がバプ  
テスマを受けた。

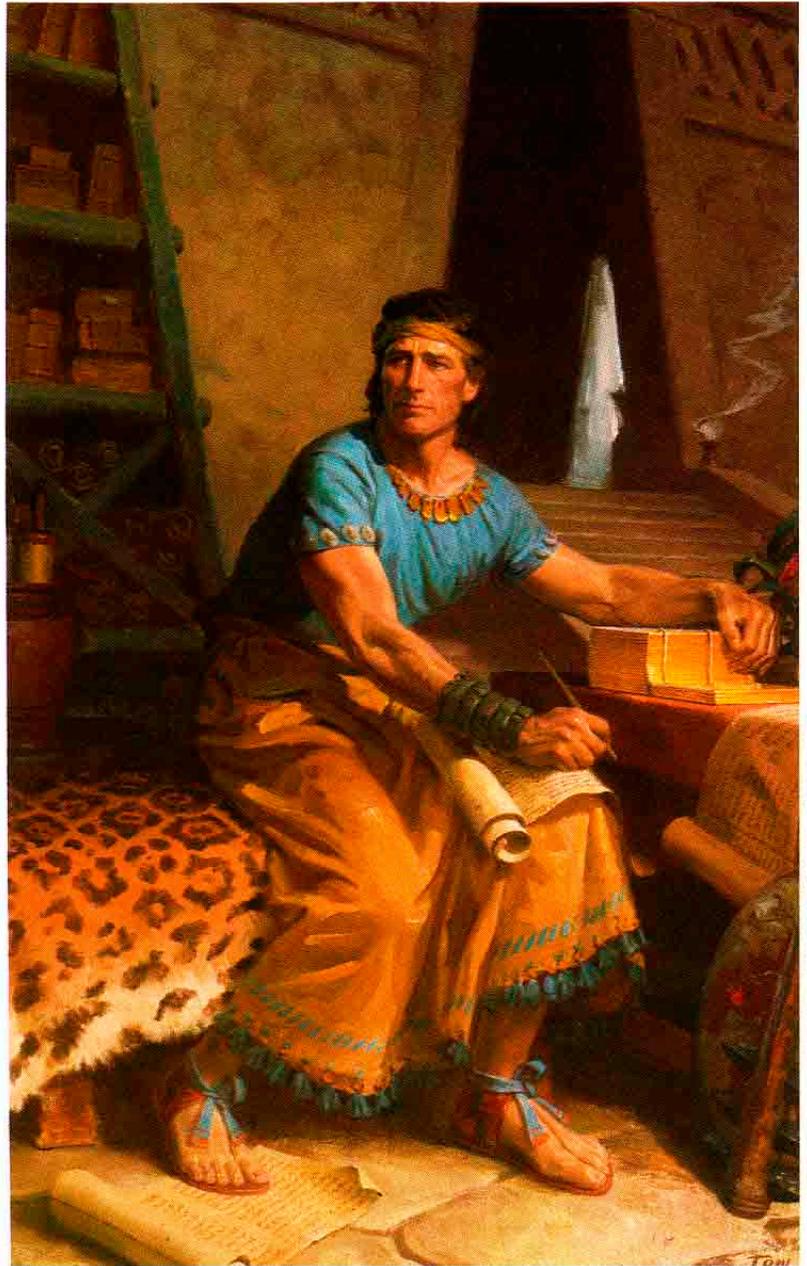


『モルモン書』を記録した人々は、予見する力を与えられて現代を予見し、わたしたちが直面する特定の問題を採り上げた。

「非常に大きな教会が〔ジョセフ〕に説教の機会を与えてくれて、3,000人ほどの人々が話を聴きに集まっていた。最初にリグドン兄弟が話者として立ち、福音について『聖書』から自分の考えを説明した。リグドン兄弟が話し終わると、ジョセフがほえたける獅子のように立ち上がり、聖霊に満たされ、非常な力をもって語り、自分の見た示現、自分が受けた天使の導きについて証を述べ、『モルモン書』の版を見いだして神の賜物と力によって翻訳した経緯について語った。彼は次のように言って語りだした。『これほど栄光に満ちた天からのメッセージ、これほど栄光に満ちた記録の発見について証する勇気のある人がほかにいなければ、経験した当人は人々にそれを正しく伝え、その結果を神にゆだねたいと思うであろう。』」(Autobiography of Perley P. Pratt 『パーリー・P・プラット自叙伝』 pp.298-299)

その時間は、ほかの教派のいかなる牧師が説くような、どんなメッセージも話しているときではありませんでした。ジョセフの受けた啓示も証も、ほかのどれとも違う独自のものだったからです。フィラデルフィアでのジョセフの説教の結果、どのようなことが起きたでしょう。「会衆全体は非常な驚きに包まれ、いわば稲妻に打たれたような状態になった。彼が語るときに示した真理と力を感じ、彼の伝えた驚異的な出来事のために会衆は圧倒された。……フィラデルフィアとその近郊で大勢の人々がバプテスマを受けた。」(同上, p.299)

わたしたちは過去の過ちを繰り返す傾向に注意する必要があります。事実、それは使徒パウロが最初に抱えていた問題の一つでした。当時の多くの人々のように、パ



MORMON ABRIGING THE PLATES, BY TOM LOVELL; OPPOSITE, ILLUSTRATION BY MITCHELL HENZE

ウロも一昔前の時代の申し子だったのです。彼も改宗前は、過去の啓示に対する忠誠心から、現在与えられている啓示を拒みました。しかし「パウロは人生の転機を経験すると、当時推し進められていた主の業の中で有為な者となり、過去の学習と体験はすべて彼が生存していた正しい神権時代の中で生かされました。わたしたちの場合はどうでしょうか。……回復の精神をほんとうに把握しているのでしょうか、それともいまだに『聖書』の字句や写本の中の伝承で『モルモン書』を評価しようとしているのでしょうか。……わたしたちは過去の時代の遺物になりたくはありません。……わたしたちの進む道が全体としても個人としても、アテネやローマに引き戻る道ではなく、新エルサレムへ続くものであるようにしようでは

ありませんか。」(ロバート・J・マシューズ “What Is a Religious Education?” *Address to Religious Education faculty* 「宗教教育とは何か」『宗教教育者への説教』ブリガム・ヤング大学, 1989年8月31日, pp.16-17)

### 罪の宣告とは何か

主の目から見ると、回復のメッセージを宣言しないのは重大な事柄に思われます。なぜでしょう。理由の一つは、それを怠れば、証の御霊が受けられない場合があるからです。1984年の春、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は小人数の『モルモン書』の講師たちを前に、わたしたちは時折敵視される宗教界でクリスチャンとして受け入れられようとするあまり、友達を作り、わたしたちが彼らと似ていることを示す努力の陰で、『モルモン書』と回復の教えを忘れてしまう傾向があると指摘しました。さらにマッコンキー長老は、愛をもって謙遜な気持ちでわたしたちの相違点、すなわちわたしたちがほんとうに与えられるもの、を強調するときだけ、主とその預言者たちが言う数と質の改宗者が得られるであろうと述べました。

広い意味で言えば、主が『教義と聖約』の中で指摘された「罪の宣告」とは、より大きな霊的な力が受けられなくなることもかもしれません。『モルモン書』の中から得られる主の教えを実践しない人々は、御霊の心地よさやきを完全に聞くことはできないのかもしれませんが。彼らは『モルモン書』が与えることのできる信仰の力を受けていないのかもしれませんが。それは決意を強め、不安なときに勇気を与えてくれる信仰です。確かに、彼らが『モルモン書』をないがしろにすればするほど、その分だけ彼らは『モルモン書』の論理と人を変える力から思いと心に情報を与えられなくなります。その結果、過ちと無関係なものを見分ける判断力は曇ってしまうでしょう。

主が言われた「罪の宣告」とは、これから与えられる

至高の特権にまで及んでいると言えるかもしれません。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう警告しました。「わたしたちの家庭は、[『モルモン書』] を使って子供たちをキリストのもとに連れて行くのでなければ強められません。わたしたちが『モルモン書』を用いて社会主義、進化論、合理主義、人道主義などの偽りを暴き、それと戦う方法を理解していなければ、この世の風潮や教えによって、家族が崩壊してしまうかもしれません。宣教師

たちは『モルモン書』を使って蛇のように巧みに前進しなければ、効果的に力を発揮することができません。……『モルモン書』を旗として掲げなければ、教会のクラスを御霊で満たすことはできないでしょう。」

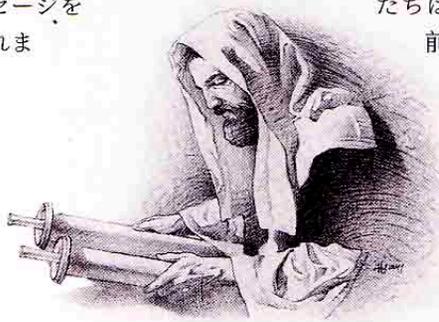
(*A Witness and a Warning: A Modern-day Prophet Testifies of the Book of Mormon* 『証言と警告——「モルモン書」に寄せる近代の預言者の証』 p. 6)

主の約束は率直です。「わたしはあなたがたの罪を赦して、この戒めを与えるからである。すなわち、あなたがたは、あなたがたに知らされたこれらのことを世のすべての人に証するために、厳粛に、また祈りの精神をもって、あなたがたの思いを確固としていなさい。」(教義と聖約84:61, 下線付加)

### 現代のために記された書物

『聖書』には、それぞれの書を記録した預言者たちがそのメッセージを自分の時代以外の人々のために残したという証拠が、ほとんど見当たりません。実に、イザヤ、ダニエル、パウロ、ヨハネ、そのほかの預言者たちも、遠い将来を予見し、語りましたが、彼らは同時代の人々に向けて言葉を伝えました。いつの日か宣言を読むであろう人々に向けて直接に語りかけたのではありませんでした。

『モルモン書』とは、何と事情が違っていることでしょう。この書物を記録した人々は、予見する力を与えられて現代を予見し、わたしたちが直面する特定の問題を採り上げました。モロナイの痛烈な次の言葉は、『モルモン書』と現代との関連性にわたしたちの注意を向け



させます。「見よ、わたしはあなたがたがここに  
いるかのように語っているが、あなたがたは  
まだこの世にいない。しかし見よ、イ  
エス・キリストがわたしにあなたが  
たを見せてくださったので、わたし  
はあなたがたが行うことを知って  
いる。」(モルモン8:35)

ベンソン大管長の言葉によれば、  
記録の要約者たちは「わたしたち  
に最も役立つと思われる物語、説  
教、出来事」を選びました。「彼  
らがわたしたちの時代を予見し、わ  
たしたちに最も価値あると思われ  
る事柄を選択したのであれば、そ  
れが『モルモン書』に対するわた  
したちの研究方法を示していない  
でしょうか。わたしたちは絶え  
ずこう自問する必要があります。

『主はなぜモルモン(あるいは  
モロナイ、アルマ)に、これを  
記録に加えるよう靈感されたの  
だろうか。この時代の生活に役立  
てるには、ここからどのような教え  
が学べるだろうか。』(『証言と警  
告』pp.19-20)

聖典の中のどの書も神の靈感を受  
けて記されています。しかし、『モ  
ルモン書』には独自の精神が貫かれ  
ています。ベンソン大管長の説明  
によれば、『モルモン書』には  
「もっと多くのものがあります。

『モルモン書』を真剣に研究し始  
めた瞬間から生活の中に流れ込む  
力がこの書物の中にはあります。  
……聖文は『命の言葉』(教義と  
聖約84:85)と呼ばれていますが、  
これは『モルモン書』にこそ最も当  
てはまるものです。これらの言葉に飢え渴く  
ようになり始めたときから、はるかに豊かに命  
を見いだすようになるでしょう。」(『証言と警



PAINTING BY HARRY ANDERSON

『モルモン書』を、破棄し、無視する  
には、この本のために何世紀にもわ  
たってあまりにも多くの血と涙が流さ  
れ、多大な犠牲が払  
われてきた。神御自  
身がこの書物につい  
て証を述べておられ  
る。「あなたがたの主、あなた  
がたの神が生きているように確か  
に、その書は真実である。」

告』pp.21-22)

『モルモン書』はよい気持ちを受  
けるのに役立つだけの書物ではあ  
りません。善い人物となるのに役立つ  
天の記録です。キリストに来るよう  
に招いているだけではありません。  
この途方もない特権を行使するため  
の規範も示しています。『モルモン  
書』は単に宗教について記された  
書物ではありません。まさに宗教  
そのものなのです。主はこう言わ  
れました。

「彼らが悔い改めて、新しい  
聖約、すなわち『モルモン書』  
と、わたしが彼らに与えた以前  
の戒めを思い起こし、そしてた  
だ口にするだけでなく、わたしが  
記してきたものに従って行動するま  
で、彼らは依然としてこの罪の宣告  
の下にある。

これによって、彼らが父の王国に  
ふさわしい実を結べるようにするた  
めである。そうでなければ、シオン  
の子らのうえに注がれる懲らしめと  
裁きが残る。」(教義と聖約84:57-58,  
下線付加)

わたしたちに課せられたチャレンジとは、  
『モルモン書』を単に研究することだけ

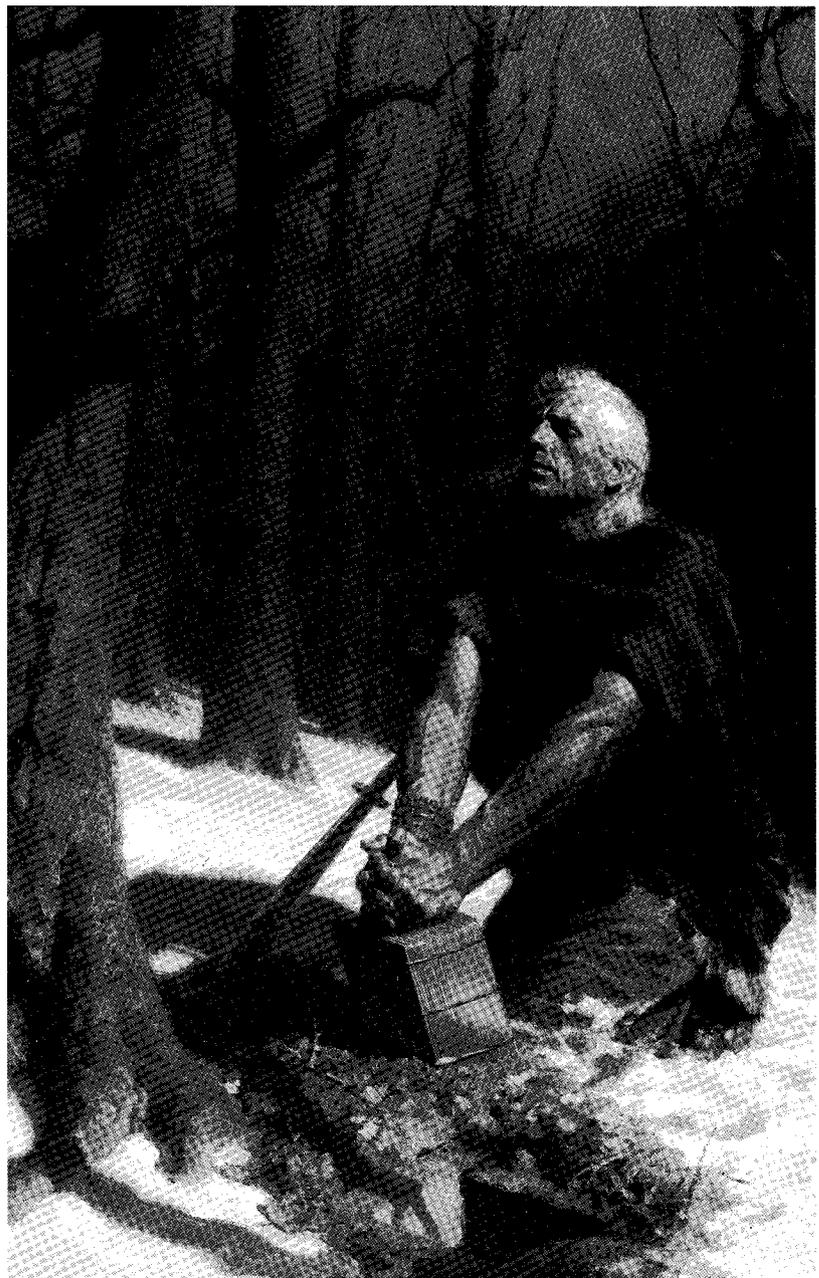
モロナイは、記録を閉じるに際して、こう宣言している。「わたしが偽りを言っていないことが、あなたがたに分かる時がすぐに来る……そして、主なる神はあなたがたに、『わたしはあなたがたに、死者の中から叫ぶもののように、まことに地の中から語るもののように、この人が書き記したわたしの言葉を告げなかったか』と言われるであろう。」

ではありません。わたしたちは『モルモン書』の教えを実践する必要があるのです。

#### 危うい救い

リーハイがアメリカ大陸に到着してから何世代にもわたって、靈感を受けた王や預言者たちは、民を守るためにラバンの剣を振るってきました。この剣は、主の助けを受けて初めて個人や民が敵の手から救い出されることを思い起こさせてくれるしるしでした。それはまた、ほかの事柄も象徴していました。聖文を得、それによって霊的な能力を得るために払われた代価も表していたのです。リーハイの民は自分たちの言語と宗教上の完全な教義を保っていくために真鍮の版を必要としていました。しかし邪悪な人がその道を阻みました。そこで神はニーファイに、ラバンの血を流しても神聖な記録を手に入れるよう命じられたのです。このように、聖文は常に、ある代価を払って入手され、守られてきました。

このことは『モルモン書』についても当てはまります。『モルモン書』を、破棄し、捨て去り、無視するには、この本のために何世紀にもわたってあまりにも多くの血と涙が流され、多大な犠牲が払われてきました。神御自身が『モルモン書』について厳粛な証を述べていらっしゃいます。「〔ジョセフ・スミス〕はその書を、すなわちわたしが彼に命じた部分を翻訳した。あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真



MORONI BURYING THE PLATES, BY TOM LOVELL

実である。」(教義と聖約17：6，下線付加)

現代の使徒はこう述べています。「これは『モルモン書』に対する神の証です。神が御自身の神性に基づいて、『モルモン書』が真実であることを保証されたのです。つまり、『モルモン書』が真実か、さもなければ神が神たることをやめるかのいずれかなのです。人や神々に知られている言葉で、これほど厳格で力強いものはあり得ません。」(ブルース・R・マッコスキー「神権の教理」『聖徒の道』1982年7月号，pp.60-61)「永遠の行く末はこの書物に対してどのような態度をとるにかかっている、と言えるでしょうか。」エズラ・タフト・ベンソン大管長は、そのような質問を設定して、こう答えています。「そのとおりです。それによって祝福を受けるか、

罪の宣告を受けるかが決まるのです。」(『証言と警告』 p. 7)

現代では救いそのものが危うくなっています。モロナイは、記録を閉じ、封印するに際して、このことを非常に明確に述べています。「わたしは、これらのことを覚えておくように勧める。わたしが偽りを言っていないことが、あなたがたに分かる時がすぐに来るからである。あなたがたは、神の法廷でわたしに会う

であろう。そして、主なる神はあなたがたに、

『わたしはあなたがたに、死者の中から叫ぶもののように、まことに地の中から語るもののように、この人が書き記したわたしの言葉を告げなかったか』と言われるであろう。」(モロナイ10:27)

教会員でない人々に対し、『モルモン書』はある決定を下すよう訴えかけます。これは天与の書物なのか否かという決定です。救いを求めているなら、だれもがこの問題について真剣に取り組まなければなりません。手を一振りしてこのことを簡単に心から払いのけてしまうわけにはいかないのです。一方、教会員に関してはベンソン大管長がこう宣言しています。「すべての末日聖徒は、この書物の研究を生涯にわたって続けなければなりません。そうしないならば、その人は自身の魂を危険にさらし、生活のすべての面で靈的にも知的にも調和を得させてくれるものを軽視していることとなります。」(『証言と警告』 pp. 7-8)

### 聖徒と『モルモン書』、そして未来

今日、預言者の勧告に従って、大勢の末日聖徒が『モルモン書』の探求を始め、多くの人々がその名状し難い、心を清める力を体験し始めています。彼らはこれまでも義になかった行いと御霊にかかわる事柄をいっそう追い求め、人々への思いやりを深め、罪を忌み嫌う心を抱くようになってきました。たくさんの人々が主に身をゆだね、主の御心を知ってそれに添いたいと願っています。そのような人には、罪の宣告などあり得ないでしょう。

「わたしは天から義を下そう。」主はそうエノクに約束

なさいました。「また、地から真理を出して、わたしの独り子と、死者の中からの独り子の復活と、またすべての人の復活について証しよう。そして、わたしは義と真理が洪水のごとくに地を満たすようにし、わたしが備える場所、すなわち聖なる都に地の四方からわたしの選民を集めよう。それは、わたしの民がその腰に帯を締め、わたしの来臨の時を待ち望めるようにするためである。わたしの幕屋はそこにあり、そこはシオン、すなわち新エルサレムと呼ばれるであろう。」(モーセ7:62)

そのような祝福に

は敵対者が付き物です。無関心で不信心な人々の間では、無知と偏見が満ちています。しかしそのただ中であって、主のすべての業は、『モルモン書』を諸国民への旗印として高く掲げながら、前進していきます。モロナイがジョセフ・スミスに説いたとおりです。「岩の上に立ってない者は、この教会を打ち倒すことを求める。しかし反対者が増えれば、教会はもっと成長するであろう。」(Messenger and Advocate 『メッセンジャー・アンド・アドボケート』 2:199)

すべての聖文は、前途に危険な時代が待ち構えていることを証しています。不正がはびこり、邪悪が横行する時代です。すべては、人の子が王の王、主の主として統治するために再臨される前に起こります。再臨の前、すなわち誇り高ぶる者や邪悪な者がわらのように焼かれる前まで、主の名によって呼ばれる者たちは聖なる場所ではか平安を得られないかもしれません。しかし、心の聖めを受けた者、つまり、心を神に従わせた者たち(ヒラマン3:35参照)、神の栄光にひたすら目を向ける者たち(教義と聖約88:67-68参照)、神のように、罪を忌み嫌う者たちは(アルマ13:12参照)、サタン<sup>サタン</sup>の仕掛ける猛襲にも耐えられるでしょう。『モルモン書』はきつと、このような未来であってわたしたちが固く立つための頼みの綱となることでしょう。

この時宜になかった、永遠の価値を持つ神聖な務めに携わるわたしたちに、神が力を授けてくださいますように。そうすれば、すべてをなし終えたとき、御業を擁護し、推し進めるために大きな犠牲を払った人々とともに、永続する魂の安らぎを得られることでしょう。□



## もう恐れません

オコロ・オニアブーチ

引っ込み思案で、  
自分から人に話しかけるのは苦手なわたしでしたが、  
『モルモン書』を読んでからは、  
人々と福音を分かち合いたいと思うようになりました。

わたしはナイジェリアのラゴスに住んでいます。13歳のとき、グリムショー夫妻という夫婦宣教師が我が家を訪問するようになりました。この夫妻はわたしたちに福音を教えてくださいましたが、最初、わたしは興味がありませんでした。

次第に話を熱心に聞くようになり、よく質問もしました。満足のいく答えを与えられていましたが、それでも完全に信じるまでには至らず、バプテスマは断ることにしていました。

最後のレッスンの日、今まで習ったことについて心から祈るようにチャレンジされました。自分で祈ってみると、とても感動しました。それでバプテスマを家族と一緒に受ける決心をしました。

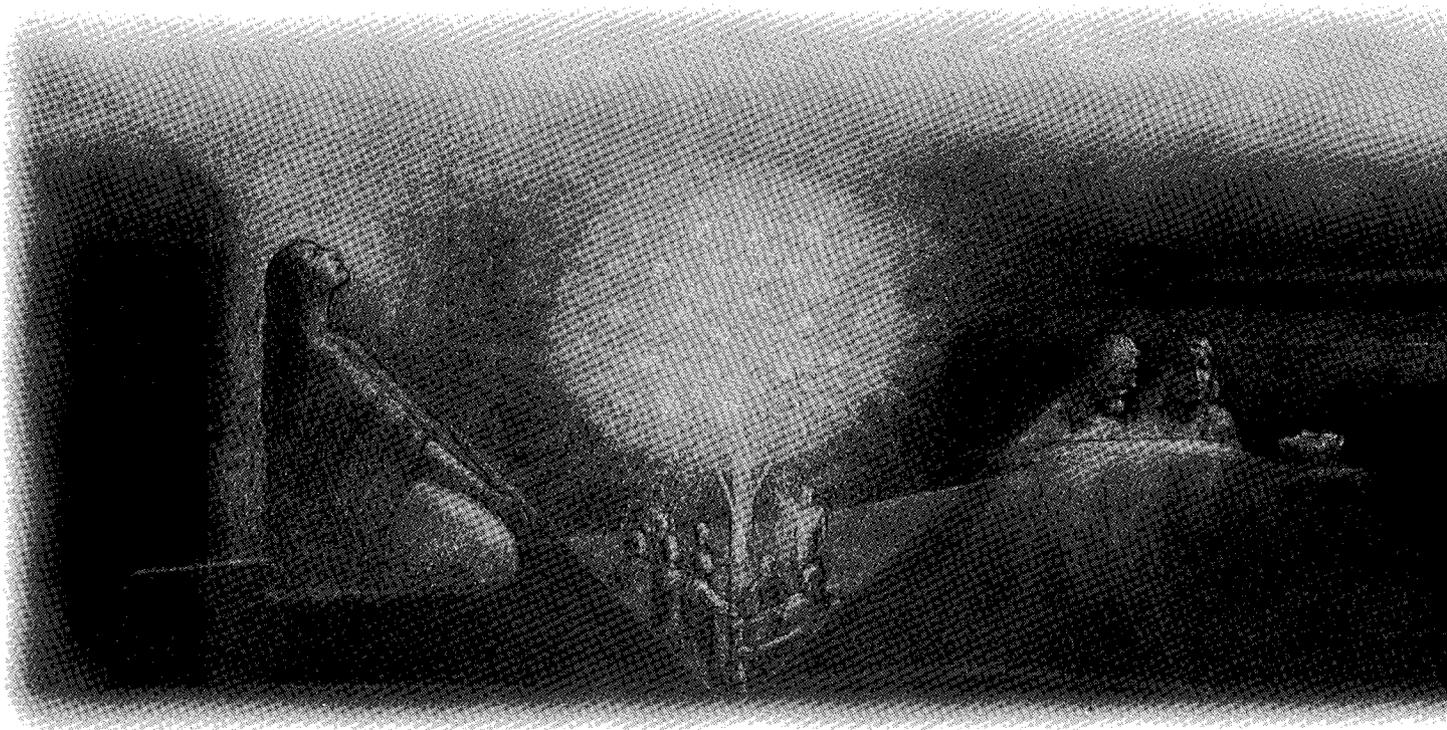
バプテスマの後、『モルモン書』を勉強し始め、しばしば断食と祈りをするようになりましたが、新しく知った福音の知識をほかの人に伝える勇氣はまだありません。しかし、勉強するにつれて、正しい生活を送りたいと強く思うようになりました。

『モルモン書』を読み終えると、わたしの証は<sup>あかし</sup>とても強くなり、教会に入って2年たったころ、福音を分かち合いたいという気持ちが急にわいてきました。心に平安を感じられるようになり、今まで持てなかった勇氣を持って、友達に教会のことを伝えられるようになりました。また断食証会でも証できるようになりました。

家族の皆は、わたしの靈的成長に目を見張り喜んでくれました。今まで感じていた恐れと恥ずかしさは、どこかへ飛んで行ってしまいました。今もわたしは、末日聖徒イエス・キリスト教会が、今日、地上で唯一<sup>ほんにち</sup>真実の教会であることを心から信じています。□

# わが足のもしび

カルメン・ロドリゲス・デ・フーエンテス



『モルモン書』はわたしの人生のあらゆる面に光を注いでくれます。

その晩、わたしはなかなか眠れませんでした。わたしの心を悩ます考えが後から後からわいてきて、とどめるすべがなかったのです。心の平安を求め、わたしは祈りました。わたしの心配事について主に尋ねたのです。「悪に満ちたこの世の中であって、良き妻、良き母親になりたいというわたしの願いを実現するにはどうしたらよいでしょうか。」特にわたしが心配だったのは、たとえわたしたちが注意して選択しようとしても、映画、音楽、テレビ、そのほかのマスメディアで不道徳な場面を目にし、また耳にすることがあまりに多く、わたしの

1歳になる娘をそのような不道徳に汚されずに育てるにはどうしたらよいかということでした。

祈っていると、突然モルモンの勧告の一部を思い出しました。悔い改めないニーファイ人の間に起こった恐ろしい戦争と邪悪な行為を見た後、モルモンは息子のモロナイに次のように書き送りました。「わが子よ、キリストに忠実でありなさい。わたしの書いたこと（ここでわたしは、見たり、読んだり、聞いたりしたことについて考えました）を悲しんで、打ちひしがれて死ぬことのないように。キリストに支えられて、……キリストの栄光と永遠の命とを願う望みが、とこしえにあなたの心の中にとどまるように。」（モロナイ9：25）

その眠れない晩にわたしが必要としていたものは、まさにこの勧告でした。『モルモン書』が再びわたしを助



ILLUSTRATED BY MATAUMU TOELUPE ALISA

けてくれたのです。

『モルモン書』はわたしに、心を落ち込ませる否定的な考えを取り除く力を常に与えてくれます。それ以上に、神の言葉として、「わが足のともしび、わが道の光」となっています（詩編119：105）。

わたしは教会に入って1年後に初めて『モルモン書』を読みました。この神聖な記録について証<sup>あかし</sup>を得た晩のことをよく覚えています。ニーファイ第一書第11章から第15章には、まだ見ぬ将来の出来事についてニーファイの受けた示現が記されています。わたしはこれらの聖文を読んで強い感銘を受け、ニーファイの書いたことはすべて真実であるという証が得られました。

セミナーで『モルモン書』を勉強したときは1か月で最後まで読みました。そして数々の重要聖句を暗唱し、

必要なときにいつでも思い起こせるようになりました。

以来、『モルモン書』を何度も読みました。『モルモン書』の教えはわたしの人生の決定が正しいかどうかを考えるためのともしびとなっています。

宣教師として働いていたとき、わたしはある事実気づきました。わたしの国、グアテマラのインディアンは、伝説や言い伝えを通して、救い主が自分たちの先祖に教え導かれたことをすでに知っていましたが、そのことが『モルモン書』にはっきり書かれているという事実です。伝道中、わたしは『モルモン書』から霊的な支えを得なくてはなりません。伝道に出るというわたしの決心を認めてくれなかったわたしの家族からは、そのような支えを得られなかったからです。

後にわたしは、大学の幾つかの授業で福音の教えに反

するようなことを教えられました。そのときにも『モルモン書』はわたしにとって鉄の棒となり、信仰を強めてくれました。また、何人かのクラスメートに『モルモン書』について話し、証を伝える機会にも恵まれました。

結婚する前、わたしは教師をしていました。ある日、1時間ほど授業がなかったので、教室のドアを閉め、『モルモン書』を読み始めました。わたしは概して自分自身を、物事のよい面を見ようとする明るい人間であると考えているのですが、そのときはとても気分が滅入っていました。人生の困難な問題に直面することに疲れてしまっていたのです。わたしはそれまで自殺について考えたことはありませんでしたし、そのときも考えたわけではありませんでした。しかし、幕を通して来世へ行けたら楽かもしれない、もし主が今わたしをみもとへ呼んでくださったら、物事はずっとよくなるかもしれない、などと思っていたのは覚えています。

そして、アルマ書第5章15節の言葉を読みました。「あなたがたは信仰の目をもって待ち望み、……死すべき体にあつてなした行いに応じて裁かれるために神の御前に立っている有様を見ているか。」読み続けるうちに、一つ一つの聖句、特に27節がわたしの心を買きました。「あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして、心の中で自分は十分にへりくだっていると云えるであろうか。また、自分の衣は、将来御自分の民を罪から贖うために来られるキリストの血によって清められ、白くされていると云えるであろうか。」

すぐに、この地上におけるわたしの使命をもうすでに果たしたという自分の子供っぽい考えを恥ずかしく思いました。そのとき以来、人生で豊かな祝福を受けてきました。わたしはまだこの世で学ぶべきことがたくさんあることを知っています。

わたしたち夫婦にとって、『モルモン書』は結婚生活の重要な一部となっています。普段の会話の中にも『モルモン書』の言葉がよく出てきます。とりわけ難しい問題について掘り下げて考えたり、重要な決定を下したりするときによりどころとしています。ニーファイのように、「すべての聖文を自分たちに当てはめて」（1ニーファイ19：23）考えるようにしているのです。ヤコブが当時のレーマン人、つまり、わたしたちの先祖について

述べていることを、わたしたちの理想とし目標としたいと思っています。「レーマン人の夫は妻を愛し、妻は夫を愛し、夫と妻は子供たちを愛している。」（『モルモン書』ヤコブ3：7）

結婚した後、子供を産むために外科的な治療を受ける必要がありました。しかし、10代のころに心臓の具合が悪かったので、手術を恐れていました。たとえ医者が大丈夫だと言っても、麻酔が怖くて、体に悪影響を及ぼすのではないかと心配でした。手術の前の晩、夫が付き添ってくれて、一緒に『モルモン書』を読みました。麻酔が効き始めたことを感じると、恐怖を抑えられるように主に祈りました。すると、モルモンの次の言葉が浮かんできました。「あなたがたは自分が神の手の内にあるのを知らないのか。あなたがたは神が一切の権威を持っておられること……を知らないのか。」（モルモン5：23）

手術の後で目覚めるのは、心地よいものではありませんでした。話すことさえできなかったのです。夫の声が聞こえたので、力づけてくれた夫に感謝の言葉を伝えたいと思うのですが、できません。体力があまりにも消耗していました。そのためか、息子アルマが天使にいさめられ、地に倒れ、2日間口を利くことも動くこともできなかったことを考えました（モーサヤ27：10-23；アルマ36：5-23参照）。アルマがそのときに新しく生まれ変わり、自身の大切な使命を果たすために悔い改めたことを、わたしは思い出しました。そしてわたしは、母親となり、天父の子供たちに肉体を与えるという大切な使命を、自分自身の経験を通して果たすために苦しんでいるのだと悟りました。

『モルモン書』はわたしの人生のあらゆる面に光を注いでくれます。『モルモン書』はわたしたちの時代の人々のために取っておかれた記録です。その記録を残してくれた気高く大いなる人々、すなわちニーファイ、アルマ、ベニヤミン王、ヒラマン、モルモン、モロナイ、そのほか、主の戒めに忠実であったすべての人々に対する感謝の気持ちから、わたしは何度も涙を流したことがあります。彼らは、会ったこともないにもかかわらず、この末日に生きる人々を強い信仰の目で見、その魂を救うためにこの書物を書き記してくれたのです（モルモン8：35参照）。□

# 恋愛ドラマは有害なのでしょうか

わたしと友人はテレビの恋愛ドラマが大好きで、欠かさず見えています。でも何人かの青少年の指導者から、この種の番組は見るべきでないという勧告を受けました。恋愛ドラマはほんとうに有害なのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 回答

テレビ番組を定期的に見たからといって、何ら害のない娯楽のように思えますが、わたしたちの態度や行動は、この種の番組を見ることでいろいろと悪影響を受けるものです。

例えば、次のような点を考えてみてください。その恋愛ドラマに描かれた登場人物はわたしたちと同様の価値観を持っているのでしょうか。彼らの選択に賛成できますか。その恋愛ドラマの内容は、世の標準を高め、正しい選択をする人々を扱っているのでしょうか。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、次のように語っています。「皆さんは、天の神が授けてくださった規則や教え、原則にそぐわない行いをするという危険を犯してはなりません。なぜなら、主は皆さんを愛し、皆さんの人生が豊かで目的のあるものとなるよう願って、これらの教えを授けられたからです。」(『祝福された時代』『聖徒の道』1995年9月号, p. 6)

今日、ありとあらゆる種類の娯楽番組を目にしますが、そこで奨励されて



PHOTOGRAPH BY MATT REIER

いる、腐敗した物の見方やこの世的な行動パターンに常時さらされていると、何が善で何が清いかという考え方に影響を受けるようになります。教会の指導者と両親は、この点を危惧しているのです。自分では善悪の区別をよくわきまえているし、霊性を攻撃するこのような力に屈することはないと反論する人がいるかもしれません。では、試しに、次のちょっとしたテストに答えてみてください。

その番組を見始めたばかりのときのことを思い出してください。番組の中で強い衝撃を受けた場面はありませんでしたか。しかし、今同じ番組について考えても、何も感じないということ

はありませんか。このような現象を、「無感覚化」と呼んでいる専門家もいます。イタリアのカタニア伝道部カタニア第2支部のアリス・パガナルは次のように書いています。「恋愛ドラマをいつも見ている人は、そこに描かれている邪悪な行いに対して無感覚になっていきます。最初のうちはほんの少しだけ描写されていた不道徳な行為が、非常に大きな偽りや姦淫、さらには殺人へと変わっていくのです。それだけでなく、恋愛ドラマの登場人物というのは、自分は環境の犠牲者であり、自分たちが犯した数々の不道徳な行為に対して何ら責任はないと主張するものです。これは、人は自分のなした行

為に対して責任があるとする主の教えとまったく相いれない考え方です。」

恋愛ドラマの悪い点をあと一つ挙げれば、習慣性があるということです。これを別の形で言い換えてみましょう。ある特定の番組を見るのに自分の生活を再調整することはありませんか。1日、1週間、1か月、その番組を見なくてもやっていきますか。ほんとうに取るに足りないものであっても、テレビ番組には、人をそこまで縛りつける力があるのです。

恋愛ドラマが持つ影響力をほんとうの意味で理解するために、自分がよく見る番組を1か月見ないで生活してみてください。最初は難しいかもしれませんが。しかし、1か月を過ぎるころには、解放感、あるいは平安を感じることでしょう。

ヒンクレー大管長は次のように語っています。「軽薄で有害なテレビ番組を見ることに時間を費やしてはなりません。今のテレビ番組の多くは、そのようなもので占められています。もっと価値のあることがあるはずです。」(『祝福された時代』『聖徒の道』1995年9月号, p. 6)

## 読者からの提案

恋愛ドラマの登場人物の多くは、作り事の世界のヒーローにすぎませんが、視聴者の生活に有害な影響を与えかねません。

しかし、わたしたち末日聖徒には、恋愛ドラマの世界は不要なのです。わたしたちは、福音に関連した多くの価値ある活動を通して、御霊みたまの導きを受けられるからです。例えば、すぐに思

いつくものだけでも、聖文の研究、セミナー、インスティテュート、スポーツ、若人の活動、日曜学校、奉仕活動、教会の召し、教会の機関誌や書籍を読むこと、ファイヤサイドへの出席などがあります。質の高い演劇やコンサート、映画の鑑賞、価値あるテレビ番組を見ることについては触れませんでした。その際には、心を高揚させ、霊性をはぐくんでくれるようなものを選びなければなりません。



ドミニカ共和国、サンフランシスコデマコリスステーク、ラ・ベガ第1支部  
ロニー・ロサリオ・アロンソ

わたしたち末日聖徒の若人は、優れた審美眼を養い、自分たちの生活の中から不道徳な娯楽を一掃する必要があります。義にかなった生活を送らなければなりません。家庭や教会、また隣人に対して、健全で建設的な態度を持ち続け、この世の汚れから離れて生活しなければならないのです。

わたしたちの運命は、わたしたちの手の中にあります。だれでも、毎日の生活で大切な決定をしていく義務があるのです。正しい選択ができるよう、主に祈り求める必要があります。ブラジル、クリチーバ・バックチェリスステーク、タルーマワード  
カルメレナ・マラウーフ・ダ・ローチャ・ドス・サントス

学校から帰って、宿題をし、母の家事を手伝い、地域社会で人々に奉仕し、教会の活動に参加し、聖文を学び、祈

りを通して主と交わった後でも、テレビを見たりラジオを聞いたりする時間があるかもしれません。しかし、そのときに忘れてならないのは、必ず福音の原則と調和する内容のものを見たり聞いたりするということです。

ブラジル、サンパウロ・モギダスクルーセスステーク、プラス・クーバスワード

ヘレナ・マリア・シルバ

恋愛ドラマや不道徳な内容の番組というのは、どんなものであれ、見ていると次第に証あかしが弱まり、霊性が破壊されていきます。もちろん、わたしたちには選択の自由が与えられていますが、今日の選択が将来の幸、不幸を決定するということ覚えておく必要があります。預言者アルマもこのように語っていることを忘れないでください。「悪事は決して幸福を生じたことがない。」(アルマ41:10)



ニュージーランド、オークランド・マウント・ロスキルステーク、サイネハ第2ワード  
カロリナ・タウラキ

恋愛ドラマはわたしたちの霊的成長にとって有害です。聖文の研究や奉仕といった義にかなった努力をすることよりも恋愛ドラマを優先する人は、人間の作り出した幻想や欺瞞、不道徳に満ちた世界に一步一步足を踏み入れていくことになります。

ブラジル、ブラジリア・アルボラドステーク、フォルモサ支部

サンドラ・ロドリゲス・コンサルベス

恋愛ドラマは暴力や不道徳、非現実的な期待といった否定的な価値観を助長します。しかしわたしたち末日聖徒は、イエス・キリストの福音と一致する価値観を土台とする必要があります。そうするとき、わたしたち自身の生活だけではなく、ほかの多くの人々の生活も豊かにできるのです。



フィリピン、バコロド伝道部  
エスカランテ支部  
マリア・リン・  
A・パンチョ

恋愛ドラマの世界は非現実的です。これはわたしの意見ですが、ためになる雑誌や精神を鼓舞する書物を読むために時間を使った方が、より生産的だと思います。もし恋愛ドラマを見るかわりにテレビのニュースを見るならば、少なくとも、世界で何が起きているか学べます。それはわたしたちがなすべきこととして、『教義と聖約』の第88章78節と79節で勧められていることでもあります。ホンジュラス、カマヤウエラ・トロカウアステーク、トロカウアワード  
マリア・V・ランザ・デ・マタモロス

恋愛ドラマやそれに類するテレビ番組を見る習慣を断つのは容易ではありません。しかし、わたしたちは強くかつ雄々しい態度で、主が与えられた報告に従う必要があります。

「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に

添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。」(モロナイ10:32)

ブラジル、レシフェ・カマラジベステーク、カマラジベワード  
ジョシバル・ジョシアス

いろいろなすばらしいことを見たり経験したりできるこの世の中にあって、どうして邪悪なものを求める必要があるのでしょうか。「自分にはイエス・キリストに対する信仰があり、巧妙な悪の誘いから守られるので心配ない」と考えていると、知らない間に高慢の罪に陥ってしまうでしょう。「高ぶりは滅びにさきだち」ます(箴言16:18)。

わたしたちは、自分たちの生活から、恋愛ドラマやこれに類する娯楽の悪い影響を取り除き、神の王国を築くためにわたしたちの時間と才能を用いることに専念する必要があります。



ザイール、キンシャサ伝道部  
ヤウンデ支部  
アーネスト・ヨンド・ボンゴングーイ

わたしたちは困難な時代に住んでいます。選択しなければならぬことが多いのです。正しいものを選び、邪悪なものから遠ざかる勇気が必要です。もしわたしたちが、気持ちの赴くままに劣悪なテレビ番組や音楽を見たり聞いたりしているならば、直ちにやめる

必要があります。若人は教会の未来を背負って立ちます。力強い証と汚れない精神が必要とされているのです。トンガ、ヌクアロファ・バイニステーク、マラポワード  
メレ・オフ・トゥーパー

もし、見聞きしている番組が天父の標準にそぐわないならば、ためらわずにテレビを消したり、よそのラジオ局にダイヤルを回したりすべきです。チリ、サンティアゴ・プエンテ・アルトステーク、プエンテ・アルト第1ワード  
バレンチナ・ラミレス

下記の質問に対する皆さんの意見をお待ちしています。締め切りは1996年4月1日です。あて先は下記のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS  
International Magazines  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, Utah 84150  
U.S.A.

氏名、住所、年齢、所属ステーク/地方部、ワード/支部名を明記のうえ日本語で意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。できれば、写真を同封してください。ただし返却は致しかねます。

質問——神を冒瀆する言葉を、学校やその他の場所で毎日のように耳にします。わたし自身は口には出しませんが、そのような言葉を頭に思い浮かべることがあります。どうしたら、心の中から神を冒瀆する言葉を一掃できるでしょうか。□



# 末日聖徒の 父親のために

キム・クレンショー・ソレンセン

『モルモン書』には、  
さらに良い  
末日聖徒の父親になるための、  
すばらしい模範が記されています。

**親**の義務や役割に関して、世の混乱がますます深まっている時代にあつて、末日聖徒は、家族の在り方と愛について貴重な設計図に恵まれています。わたしは『モルモン書』がこの時代のために書き残されたと理解していますから、今まで何度となく聖文に導きを求めてきました。そして『モルモン書』の中に、子育てに関する疑問の答えを見つけ、見習うべきすばらしい模範を発見したのです。

『モルモン書』には、父親が子供の善悪の選択に強力な影響を与え得ることが示されています。邪悪な「先祖の言い伝え」（アルマ9：16。モーサヤ1：5；アルマ17：15も参照）に従ったために幾世代も邪悪な子孫が続いた物語が数多く記されています。また、先祖の義にかなった言い伝えと教えにより、同じく義にかなった生き方をするように影響を受けた子供と子孫の例も、多く記されています。



### 義の模範 .....

ベニヤミン王は、父親として子供たちに良い模範を示した人でした。聖文には、王は「聖なる人」であって、「義をもって自分の民を治め」（モルモンの言葉1：17）、平和を確立するために「自分の体力の限りを尽くし、能力の限りを尽くして働いた（18節）」と書かれています。

ベニヤミン王は、「先祖の口を通して語られ〔た〕…数々の預言について知ることができるように」（モーサヤ1：2）、3人の息子に先祖の言葉を教えました。そして、真鍮の版に刻まれた記録について教えたのです（3節参照）。

ベニヤミン王は、言葉と行いを通して義の模範を示しました。自分が一生を奉仕にささげたことを息子たちと民に思い起こさせ、彼らが「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである」（モーサヤ2：17）という原則を体得

今日の父親も、『モルモン書』の父親たちのように義の言い伝えと教えを通して子供たちに影響を及ぼすことができる。

することを望みました。王はまた、どうしたら「澄んだ良心をもって神の御前を」（27節）歩むことができるか身をもって示し、人々が慈愛、悔い改め、そして従順の聖約を実践できるように靈感を与えました。

### 啓示を受ける .....

ベニヤミン王の息子モーサヤが、義にかなった統治者となったのは、ベニヤミン王の模範の力を証するものです。モーサヤは父に倣い、啓示を通して子供たちの幸福を願い求めました。モーサヤの息子たちは、悔い改めと改心の後、レーマン人のもとに行き福音を宣べ伝えた



いと許可を願い出ました。モーサヤは、息子たちの身の安全を危ぶんで、「主に尋ね」ました。

「すると、主はモーサヤに言われた。『彼らを行かせなさい。多くの者が彼らの言葉を信じるからである。……わたしはあなたの息子たちをレーマン人の手から救い出そう。』」（モーサヤ28：6-7）

父親には、子供たちの物心両面にわたる幸福を見届ける大きな責任があります。『モルモン書』の父親たちと同様に、現代の父親にも啓示によって導きを受ける資格が与えられています。その条件は、啓示を求めることと、啓示を受けるのにふさわしく生活していることです。

### 御霊によって教える

子供の養育について御霊を求めて祈った預言者はほかにも幾人かいます。不従順な息子のレーマンとレムエルをたしなめた父親の陰には大いなる力があつた、とニーファイは語っています。

「そこで父は、レムエルの谷で御霊に満たされ、二人の体が自分の前で打ち震えるまで力強く彼らに語った。そして父が二人を言い伏せたので、二人は一言も言い返さず、父の命じるとおりにした。」（1ニーファイ2：14）

『教義と聖約』は、「御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない」（42：14）と教えています。効果的に教えるためには御霊の存在が不可欠なのです。とりわけ家庭では大切なことです。

息子エノスとの関係に、霊的な面での教師としてのヤコブの重要な一面を見ることが出来ます。父子の語りの中でヤコブが日常的に福音を話題にしていたに違いないことは、エノスの言葉から分かります。エノスはこう書いています。「見よ、わたしは森で獣を狩ろうとして出かけた。かつてわたしは、父が永遠の命と聖徒たちの喜びについて語るのを度々聞いていたのだが、その父の言葉が、そのときになってわたしの心に深くしみ込んできた。」（エノス1：3、下線付加）

息子を教えようとするヤコブのたゆまぬ努力は報われました。ヤコブの言葉がエノスを動かし、罪の赦しを求

めて熱心に祈らせたからです。主はエノスの罪を赦されただけでなく、ニーファイ人の記録を保存し、ふさわしいときにその記録を世に出すと、エノスと聖約を結ばれたのです（12-13、16節参照）。

### 決して子供を見限らない

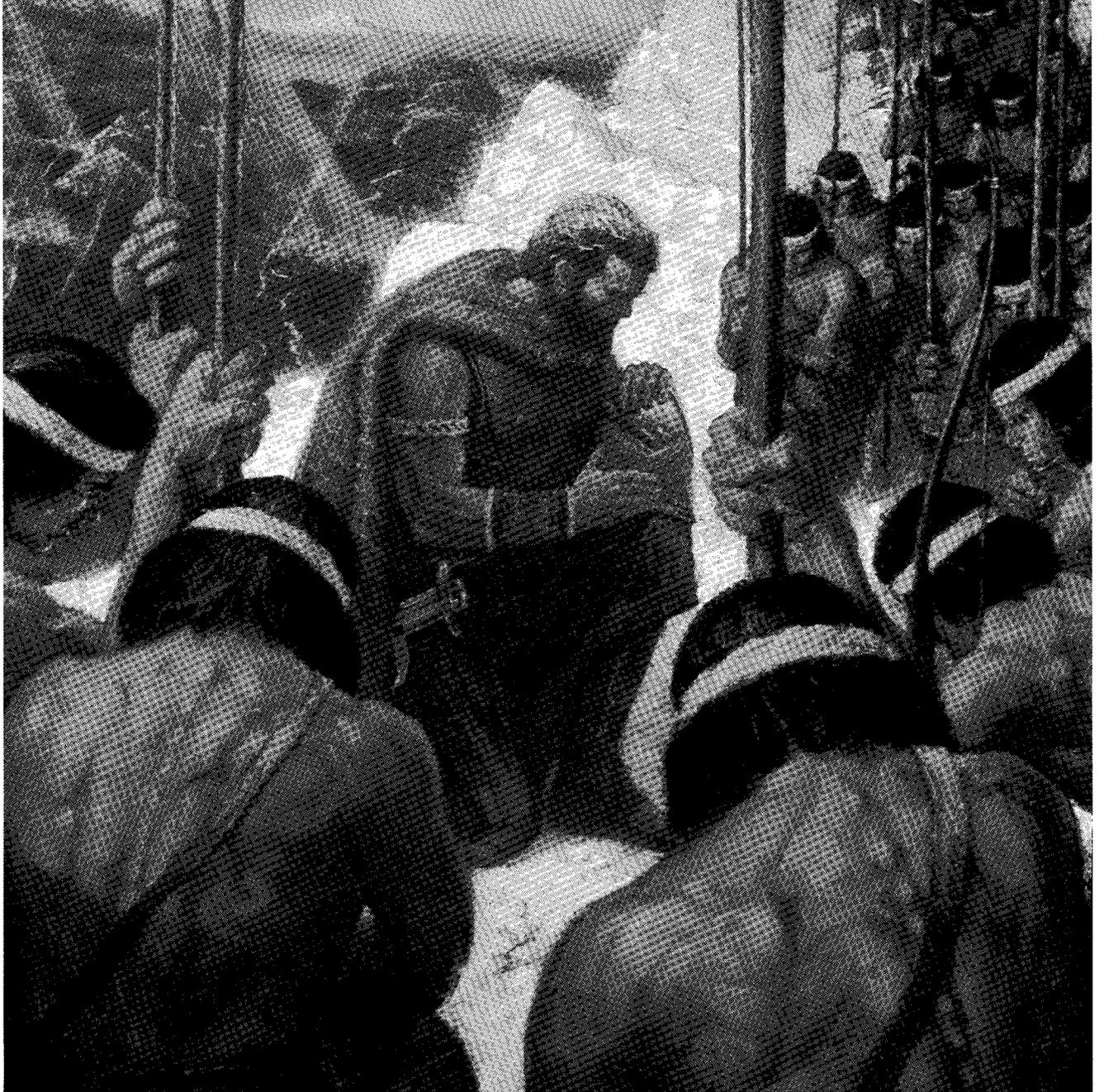
『モルモン書』で最も感動的で霊的な物語に、道を踏み外した息子を助ける父親の物語があります。偉大な霊的指導者だったアルマは、その時代の教会の創始者であり、多くの人々に愛されていました。父アルマの絶大な影響力にもかかわらず、息子の一人のアルマは「不信仰な者たちの中に数えられており」「非常に邪悪な男で、偶像を礼拝する者になって」いました（モーサヤ27：8）。また、息子アルマは多くの人々に罪を犯させた張本人でもありました。

ある日、息子アルマが「神に背いて歩き回っていたときに」（11節）、主の天使が現れて言いました。「見よ、主は、御自分の民の祈りと、御自分の僕であり、またあなたの父であるアルマの祈りを聞かれた。あなたの父が、あなたが真理の知識に導かれるように、深い信仰をもってあなたのことを祈ってきたからである。したがって、わたしは神の力と権能が存在することをあなたに認めさせるために来た。」（14節）

アルマは決して息子を見限ろうとはしませんでした。正しいことをするように強制せず、息子のために信仰を表し続けたのです。わたしたちは時々、子育ての難しさに、とても自分の手に負えないと感じることがあるかもしれませんが、いつでも天父に助けを求めることができることを忘れてはなりません。道を踏み外した子供を見限るのは、天父の奇跡を行う能力を疑うことです。

### 父親代わり

『モルモン書』の中で最も感動的な話の一つは、実の父親の話ではありません。ヒラマンは、2,000人のアンモン人戦士にとって偉大な父親代わりでした。この若者



たちは、ヒラマンが指揮を執ることを条件に、戦いに行くことに同意したのです。ヒラマンに対する彼らの愛と尊敬の深さは、わたしたちの想像を超えるものでした。

モロナイにあてた書簡の中でヒラマンは、最初の戦いを前にこの若い战士们と交わした言葉を紹介しています。「わたしがいつも彼らを（皆、非常に若かったので）わたしの息子たちと呼んできたように、彼らもわたしに、『父よ、まことに、神はわたしたちとともにいて、わたしたちが敗れることのないようにしてくださいませ。……』と言いました。」（アルマ56：46）

世の中には、現代のヒラマンが大勢います。継父、祖父、おじ、スカウト指導者、監督、ホームティーチャー、

ヒラマンやほかの模範的な『モルモン書』の指導者たちは、現代の父親に、悪に対抗して若者を強めることの大切さを身をもって教えている。

そして近所の人や青少年の指導者たちが、ヒラマンのように父親の必要な子供たちに手を差し伸べて祝福しているのです。

#### 永遠の遺産を残す

今の時代は、家やボート、銀行口座といった、物質的



な遺産を子供たちに残そうと必死に働く父親でいっぱい  
です。それとは対照的に、『モルモン書』に登場する模  
範的な父親たちは、さびに腐食されない遺産を残すこと  
の大切さを教えてくれます。

イエス・キリストの弟子になるための様々な霊的助け  
と自制心、そして信仰を子供たちに残すこと、これ以上  
の遺産があるでしょうか。リーハイとその息子ニーファイ  
とヤコブ、ヤコブと息子エノス、そしてベニヤミン王  
と3人の息子、モーサヤと4人の息子、アルマとその息  
子たち、ヒラマンと息子のリーハイとニーファイ、モル  
モンと息子モロナイ。これは皆、キリストの弟子である  
ことの喜びと自制する喜びを学んだ父と息子です。

『モルモン書』の中の義人を父親に持った息子たちは  
皆、「主の薫陶と訓戒によって」（エノス1：1）教えら  
れたことと、それによってイエス・キリストに導かれた  
ことに感謝しています。

### 偉大な息子こそ偉大な父親になる

『モルモン書』の初めの方に、ニーファイが荒れ野で  
弓を折った日の物語があります。飢え死にする可能性に  
直面したとき、リーハイですら、ほかの者たちとともに  
「主なる神に対して」（1ニーファイ16：20）つぶやいた  
と記されています。

ニーファイは、つぶやくかわりに新しい弓を作り、父  
親のもとに行ってこう尋ねました。「食糧を得るのにと  
こへ行ったらよいですか。」（23節）

名譽幹部のマリオン・D・ハンクス長老は、この出来  
事についてこう語っています。「わたしはこの出来事を、  
この聖文の中でも大変意義深い教訓の一つに数えていま  
す。……信仰が揺らいでいる目上の者のもとに行き、  
『神に尋ねてくれませんか』と頼むだけの力と、謙遜さ  
と、男らしさを十分備えた息子の話だからです。ニー  
ファイは、これこそ人を強める方法であり、人は信頼さ  
れることによって自信をつけるのだということを、何ら  
かの方法で知っていたのです。リーハイは神に尋ね、神

は答えられました。リーハイは、こうして指導力を回復  
することができたのです。」（BYU Speeches of the  
Year, 1960『プリガム・ヤング大学年度講話、1960年』  
p. 7）

父を敬う息子たちの中で最も偉大な例は救い主御自身  
です。その模範から、わたしたちは父親の役割が永遠で  
あることを学ぶことができます。イエス・キリストは、  
成人した、賢明で完全な御方です。それでも、主はいつ  
までも天父の御子であり、天父を常に敬い、愛しておら  
れるのです。

キリストのアメリカ大陸訪問から、わたしたちは天父  
およびこの世の父親の良い息子になるための、二つの重  
要な鍵を学ぶことができます。

第1に、わたしたちは父に教えを請うことができる、  
ということです。救い主は、幼い子供たちを御前に呼び、  
彼らのために天父に祈って、このすばらしい模範を示し  
てくださいました。主は、父なる神と話すことのできる  
息子であられたのです（3ニーファイ17：15-16参照）。

第2に、わたしたちは父親の義にかなう助言に喜んで  
従順に従い、その行いによって父親を敬わなければなり  
ません。救い主は、ニーファイ人に御姿を現されたとき、  
こう言われました。「わたしは、父がわたしに下さった  
あの苦い杯から飲み、世の罪を自分に負うことによ  
って父に栄光をささげた。わたしは世の罪を負うこと  
によって、初めから、すべてのことについて父の御  
心に従ってきた。」（3ニーファイ11：11）

『モルモン書』の父と子のように、わたしたちも困難  
な時代に生きています。今ほど立派な父親が必要とされ  
ている時代も、そしてそのような父親が珍しく思われる  
時代もほかにありません。『モルモン書』に記された父  
親のための貴重な設計図をもっと注意深く検証すれば、  
この偉大な聖文が確かにわたしたちの時代のために書か  
れたものであり、天父はわたしたちが直面している困難  
をよく御存じで、子供を正しく養育できるように、末日  
の父親に指針を与えてくださったと、新たに証を得るこ  
とができるはずです。□

# イエス・キリストに従う信仰

「さあ、われわれは主の光に歩もう」(イザヤ2:5)

**イ**エスは荒野で40日40夜断食し、サタンの誘惑を受けた後、十二使徒を召し始められました。ガリラヤ湖のそばを歩いておられたとき、救い主はペテロとアンデレを召して、こう言われました。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタイ4:19-20) これと同様の招きをイエスから受けた後、兄弟であったヤコブとヨハネは「すぐ舟と父とをおいて、イエスに従って行」きました(マタイ4:22)。

これらの弟子たちは、イエス・キリストに従うために人生の行路を変えました。これから先、主とともに歩む人生の旅路がどのようなものかをほとんど知らずに、すべてを喜んで捨て、主に従う一歩を踏み出したのです。

## 救い主への従順は 小さな歩みから始まる

救い主に従う信仰を持つことは、ペテロやアンデレ、ヤコブやヨハネのように劇的な経験ではなく、たいていの場合小さな歩みから始まります。トーマス・S・モンソン副管長が言われる

ように、「忠実と呼ばれる道に休憩所はありません。長く苦しい旅が続きますし、ぐずぐずしている暇はないのです。」(Ensign『エンサイン』1993年10月号, p. 4)

救い主に従う第一歩を、完全な知識を持たずに踏み出す人は少なくありません。ロシアのモスクワに住むニコライ・イ・プリベジエントシプは、ついに教会に入ろうと決心したとき、教会が真実であるということを知り、福音についてすべてを理解していたわけではなかったと述べています。そしてこう付け加えていました。「でも、いつか分かる日が来ると確信しています。」主に従う信仰を行使するのなら完全な真理を身に受けられると信じているのです。

わたしたちやプリベジエントシプ兄弟のような主に従う人々を助けるために、イエス・キリストは道を示し、常に導いてくださっています。生ける預言者や聖文、聖霊の賜物、神聖な神殿の聖約を与えてくださいました。これらの賜物を用い、個人的な啓示を祈り求め、家庭や社会で奉仕するとき、わたしたちは主に従っているのです。

## 救い主に従うことは 栄光に満ちた祝福をもたらす

イエスは地上で生活されていたとき、わたしたちを招く深い意味のある言葉を語られました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ8:12) わたしたちは救い主に従うとき、生活の中に神の御手を感じ始めます。主の教えをさらに十分に実践するとき、御霊の賜物と実、すなわち「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制」(ガラテヤ5:22-23) という祝福を経験するのです。

人生の困難な状況はすぐには変わらないとしても、わたしたちは、主に従うという選択の結果として、御霊の力によりこれらの賜物を受けることができます。預言者ジョセフ・スミスは、「もし幸福に通じる道を歩むなら、…幸福」を享受できると述べています。(Teachings of the Prophet Joseph Smith『預言者ジョセフ・スミスの教え』pp. 255-256)

●救い主に従うという決心を強めるために、あなたはどのようなことをしてきましたか。

●キリストに従ったとき、どのような祝福を受けましたか。□

ILLUSTRATED BY DILLEEN MARGH







CHRIST IN GETHSEMANE, BY HEINRICH HOFMANN

## 「神に叫び 求めなさい」

<sup>あわ</sup>憐れみ、<sup>ゆる</sup>赦し、守り。  
家族、畑、家畜の群れ——  
これらのために祈りなさい。  
アミュレクはそう教えました。  
では、わたしたちの祈りは  
いたずらにささげられて  
いないでしょうか。

「<sup>そ</sup>れゆえ、神がわたしの<sup>はらから</sup>同胞  
であるあなたがたに、あな  
たがたが悔い改めを生じる信仰を働  
かせて、神の<sup>みな</sup>聖なる御名を呼び始め、  
神の<sup>あわ</sup>憐れみを得られるようにしてく  
ださいように。

まことに、神に憐れみを叫び求め  
なさい。なぜなら、神は人を救う力  
を備えておられるからである。

まことに、へりくだって、神に祈  
り続けなさい。……」

「家にいるときには、まことに、  
あなたがたの家のすべての者につい  
て、朝も昼も晩も神に叫び求めなさい。

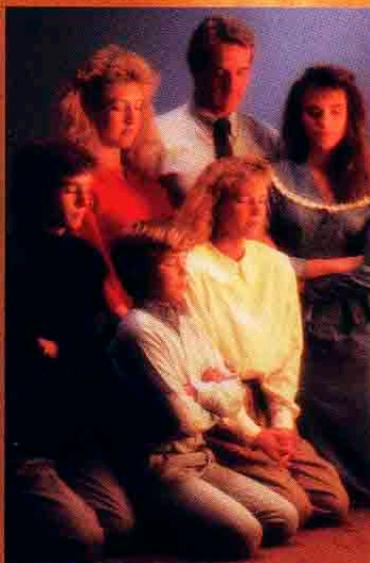
まことに、敵の力を防ぐことができ  
るように、神に叫び求めなさい。

まことに、あらゆる義の敵である  
悪魔を防ぐことができるように、神  
に叫び求めなさい。

あなたがたの畑の収穫が豊かであ  
るように、作物について神に叫び求  
めなさい。

あなたがたの牧場の家畜が増える  
ように、家畜の群れについて叫び求  
めなさい。

しかし、これだけではない。あな  
たがたは自分の部屋でも、人目に触  
れない場所でも、荒れ野でも、あな  
たがたの心を注ぎ出さなければなら  
ない。」





PHOTOGRAPH BY STEVE BUNDERSON

「また、声に出して主に叫び求めないときでも、あなたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸いを気遣う気持ちを心に満たし、それが絶えず主への祈りになるようにしなさい。

さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに言う。これですべてであると思ってはならない。これらのことをすべて行っても、もし乏しい人や着る物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりするならば、あなたがたに言うが、もしあなたがたがこれらのことのどれも行うことがなければ、見よ、あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない。あなたがたは信仰を否定する偽善者と同じである。」（アルマ34：17-28）□





# 実りある聖

リサ・M・グローバー

PRESIDENT HINCKLEY PORTRAIT BY JED CLARK;  
LEFT, PHOTOGRAPH BY JERRY GARNIS

「わたしは聖典が大好きです。このすばらしい書物には、天父の息子や娘を導くために神から直接、あるいは預言者を通して与えられた御言葉が記されているからです。わたしは聖典を読むのが好きで、いつも繰り返し読むようにしています。聖典を引用するのも好きです。話す言葉に権威が備わるからです。しかし、聖典に通じた学者として名声を博そうというわけではありません。わたしが聖典を読むのは、学問の追求のためではなく、主と預言者の言葉を愛しているからなのです。」

—ゴードン・B・ヒンクレイ大管長  
(『聖徒の道』1986年6月号, p. 2)



# 典研究のアイデア

**聖**典を学ぶことによって、知識と信仰が増し加えられます。また、わたしたちの心が開かれ思いが啓発されて、御霊のささやきが聞こえるようになります。しかし時には、周りの環境が聖典を読むのに理想的でないことがあります。ここでは、聖典を読むために時間を取り、1日の中で最も充実した時間を過ごすためのアイデアを、幾つか紹介します。

## 聖典を読み始める

- まず最初に、聖典の研究を始めるという決心をします。その決心を紙に書き、よく見える所にはってください。
- もし自分の聖典を持っていないければ、聖典を手に入れる目標を立てます。誕生日やクリスマスの贈り物としてプレゼントしてくれるようお願いすることもできるでしょうし、働いて自分で買うこともできるでしょう。それまでの間、教会の図書館や友達から聖典を一そらい借りて来ます。
- 聖典を読んでいる間、手もとに鉛筆を置いておきます。自分の聖典の余白かノートを使って、読んだ聖句に関する感想をきれいに書き込みます。
- 毎日同じ時間に聖典を学べる静かな場所を探してください。環境は理想的ではないかもしれませんが、環境を最大限に利用できるように努めます。
- 最初は着実に読めなくても、落胆したり投げ出したりしないことです。忍耐が必要です。毎日学べばだんだんと簡単になってきます。そしてすぐに聖典を読む習慣が身に付きます。
- 今できるところから始めます。最初数分間しか聖典を読めなくても、そこから始めてもっと長い時間読めるように努力します。
- 自分にいちばん合った時間帯に聖典を学びます。朝早く起きて最初に聖典を読むのが好きな人もいますし、寝る前に読むのが好きな人もいます。大切なことは、毎日

学べる時間帯を見つけることです。

- 自分を他人と比較しないでください。聖典を読む速さとその方法は、人によって違います。

## さらに理解を深めるために

- 助けを求めて祈ります。
- 年齢に達していたら、セミナーに参加します。4年間のコースを、すべて修了できるように計画を立てます。
- 各章の前書きを読みます。書かれている記事の概要が理解できていると、読む内容に集中できます。
- 難しい概念を理解したら、それをだれかほかの人に教えます。そうするとほかの人が学ぶ手助けができますし、自分もよく覚えられます。
- 聖典の物語を家族と一緒に読みます。
- 家庭の夕べに参加します。時々レッスンを教える手助けをします。

## 基本をマスターしたら

- 聖典研究に関する日記をつけます。章ごとに、あるいは何章かごとに読んで得られた自分の考えやアイデアを書き留めます。
- 聖典の中にある模範を探し出します。例えば、救い主の生涯に関連するすべての参照聖句や、御業についてのすべての参照箇所<sup>みわざ</sup>に印を付けるとよいでしょう。
- ある特定のテーマに絞って、その参照聖句を調べます。『聖書』の中の聖句が『モルモン書』の中の聖句とどう関連しているか調べます。
- ある定まった福音の原則に関して、聖句を幾つか拾い出します。同じ原則に関する幹部の大会説教を読んで、類似点を見つけます。
- 聖典に関する証<sup>あかし</sup>を得たら、『モルモン書』の見返しのページにその証を書き、友達に渡します。□

# 二人の 時間

トレシー・バランド

PHOTOGRAPH BY CRAIG DIMOND, POSED BY MODELS

フルマー家のニッキーとブレイクは言い争いが絶えませんでした。原因はたいてい、ニッキーが弟のブレイクのTシャツを勝手に借りてしまうとか、ブレイクが姉さんの嫌いな音楽を家で弾くといったことです。ニッキーとブレイクは何とか衝突を避けようと思っていたので、ステーキの「二人の時間」という実験に参加することにしたのです。

「二人の時間」というのは、家族のだれかと、1時間好きなことをしながら二人だけで過ごすようにすることです。ともに時間を過ごすことで、友情を築き、衝突を避けられるようになるのです。

思っていたより早く、良い結果を得られた家族がいます。

ニッキーは弟のソーダ水好きを知っていたので、一緒に飲みに行かないかと弟を誘いました。弟はおごってもらえるので、その誘いに賛成しました。ソーダ水を飲んでから、1時間くらいドライブをしました。ほんの1度だけそのような時間を持ったのですが、ニッキーはこのように話してくれました。「弟はかっこうがいいことなら何でもしたがる年ごろです。そしてわたしと一緒にいることが、かっこうがいいと思うようになったみたいです。」

この実験に参加したほかの青少年たちは、兄弟げんかが問題だったわけではありませんが、もっと良い関係になれると思っていました。カーティス・モーリーは、子供のころ弟と仲の良い兄弟であったことを、懐かしく思っていました。そこで夏の間朝早く起きて、弟がバレーボールの練習に自転車で行くとき、自分も

一緒に行くことにしました。

「最初、何でもないことを話していただけでした。でも日がたつにつれ、腹を割って話せるようになりました。弟に大きな変化が起こるかと思っていましたが、弟に変化はありませんでした。そのかわりに自分が変わったんです。弟との間に、友達のような関係を回復できました。弟は今では必要なときに力になってくれる友達です。そしてすばらしいバレーボールの相手にもなっています。」

自分だけの「二人の時間」を持てるように、アイデアを紹介しましょう。

■もっと親しい関係を築きたいと思っている家族の一人を選びます。そしてその人を「二人の時間」に誘います。このように誘ってはどうか。

「二人きりで話がしたいんだけど。」

「散歩しない？」

「ソーダ水が飲みたいんじゃないの？ おごってあげるよ。」

■お金をたくさん使う必要はありません。まったく使わなくてもいいのです。しかし誘う相手が喜ぶ活動を選んでください。

■相手が忙しいときであれば、お互いにとって都合のよい別の機会を見つけてください。

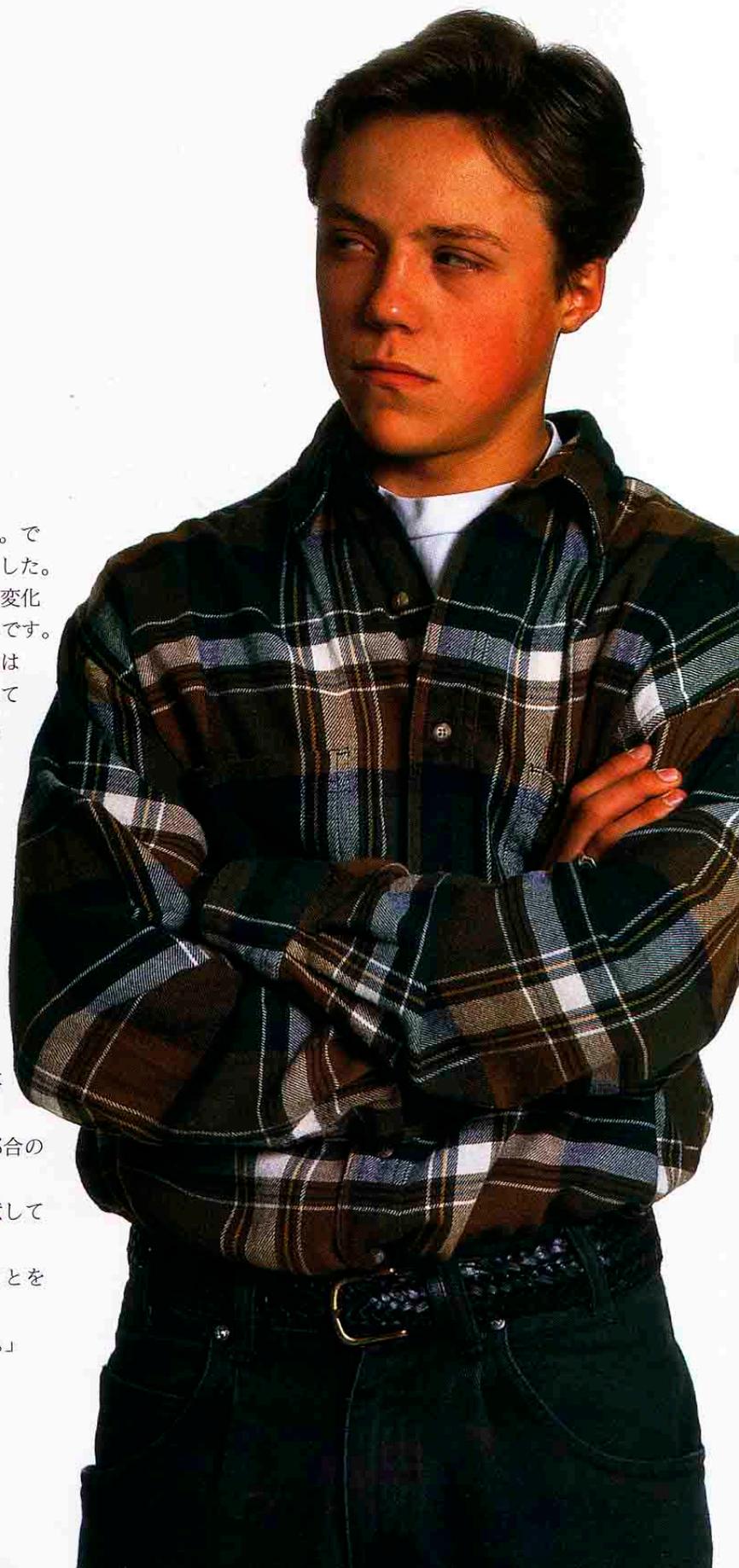
■「二人の時間」にじゃまが入らないように注意してください。

■二人きりのときに、心から相手に関心があることを示す質問をしてください。例えば、

「今週の出来事でうれしかったことを3つ教えて。」

「数学の授業にがっかりしているの？」

「サッカーチームはどうしているかい？」



■お金をもらおうとしたり、お願いをしたりしないようにしてください。相手自身に心に向けてください。緊張状態に陥らないためにも、お互いが神経過敏になる話題は避けましょう。

■注意を十分に払って、相手の話を聞いてください。

この「二人の時間」はほんとうに兄妹間の関係改善に役立つのでしょうか。ユタ州の二つのステーキで参加した人たちはこのように述べています。

「弟のブレイディとわたしの関係が悪かったわけではありません。問題は関係がまったくなかったことです。学校の活動と友達がわたしにとってすべてでした。弟と時間を過ごすことなどまったくありませんでした。この実験について聞いたとき、すぐにブレイディのことを思いました。このことについて祈り、弟を誘うべきだとはっきり分かりました。初めのうちは面倒でしたが、次

「第4回目の『二人の時間』で、わたしたちはキャンデーを作りました。そしてテープの音楽に合わせて一緒に歌いました。キャンデーが出来上がるころには、わたしたちは以前にも増して親しい関係になっていました。」

第に簡単になり、ついには弟といるのが楽しくなったのです。わたしが初めの一步を踏み出さなくてはならなかっただけでした。今では、弟がわたしを誘い出してくれます。」——ブリタニー・ブラマー

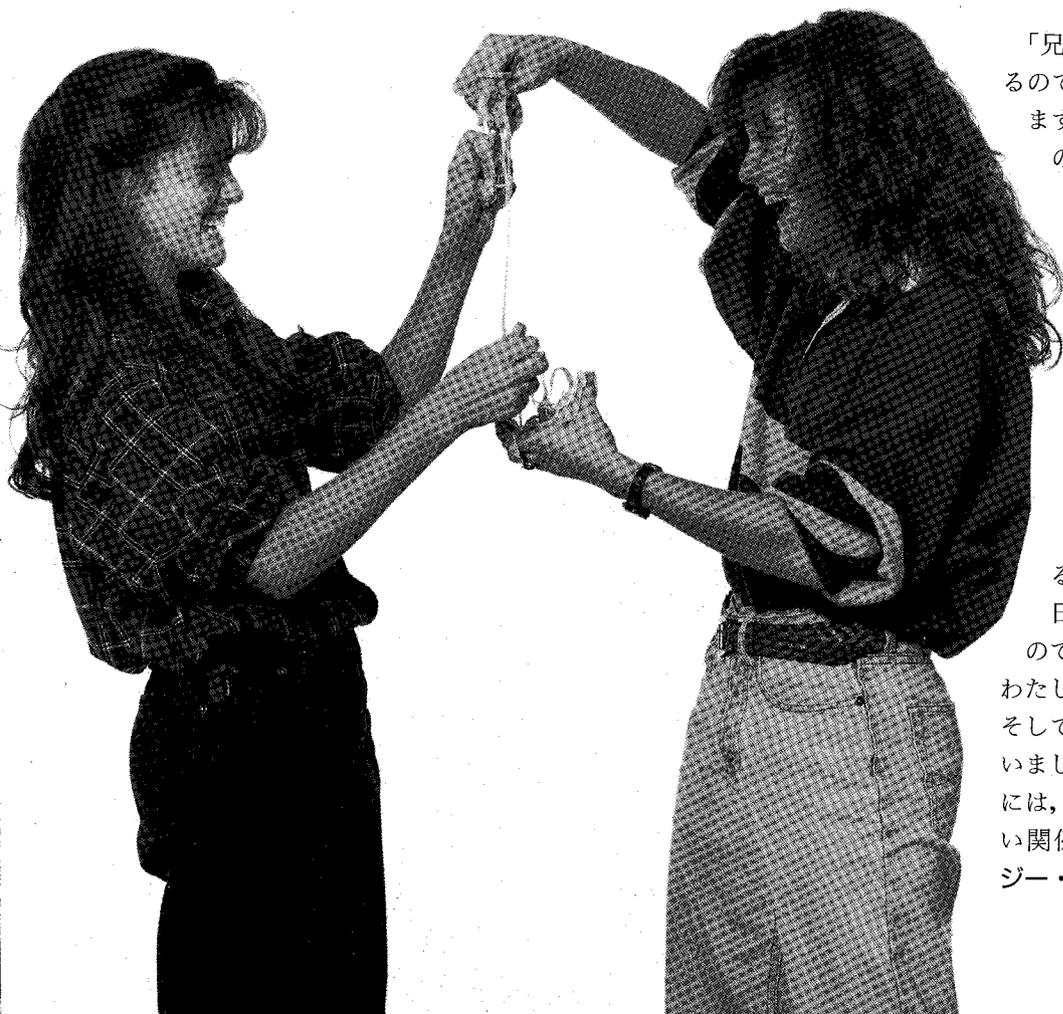
「妹に対して新しい発見があったとは言えませんが、妹ともっと親しくなったことは確かです。」——エリカ・ステファン

「10代のわたしは、すきんだ青春を過ごしていました。傷ついたわたしの心を癒してくれる人を求めて、静かに祈りました。それから20分もしないうちに、姉が出かけようと誘ってくれたのです。同じ家に親友がいることがどんなにすばらしいか、とても言葉では表現できません。」——シドニー・シャープ

「ぼくの弟はほんとうに勘に障るやつで、みんな弟の隣に座るのさえ嫌がります。だけれど『二人の時間』にだれを選ぶべきか、よく分かっていました。リビングルームにテントを張ってキャンプし、翌朝は一緒に自転車に乗りました。目を見張るような変化はなかったものの、弟が以前ほど人をからかわなくなり、もっと自分の気持ちを話してくれるようになったことに気づきました。」——ジョナサン・マイアーズ

「兄がもうすぐ大学のために家を離れるので、しばらく会えなくなってしまいます。寝袋を持って来て、兄のベッドのわきに寝てもいいかと聞きました。それから約1か月間、毎晩のように語り合いました。十分な睡眠時間が取れなかったものの、親しい関係を得られたので、そんなことは小さな代償でしかありません。」——マツト・ロウ

「妹とわたしは、電話の奪い合いや服の貸し借りなど、つまらないことで大きな言い争いに発展することがよくありました。そして何日も口を利かなくなり、にらみ合うのです。第4回目の『二人の時間』で、わたしたちはキャンデーを作りました。そしてテープの音楽に合わせて一緒に歌いました。キャンデーが出来上がるころには、わたしたちは以前にも増して親しい関係になっていました。」——アンジー・ウッドワード□



**我**が家は家庭の夕べが大好きです。これまで、何年もの間に思い出に残る家庭の夕べをたくさん行ってきましたが、その中でも好評だったものの一つに「奉仕の手」という活動があります。

ある月曜日の夜、開会の歌と祈りが終わって、わたしたちは「自分に与えられた2本の手でできる、素晴らしいこと」というテーマで話し合いました。絵を描くこと、動物をかわいがること、家事を手伝うこと、クッキーを作ること、そのほかにも山ほど挙げることができました。家族の中で奉仕するときに、自分の手をどう使えるかということについて、わたしたちは話し合いました。その後で、色画用紙に自分たちの手形を幾つかなぞって、切り取り、模様を描いてみました。やがて、一人一人に1週間分の「奉仕の手」の小さな山ができました。

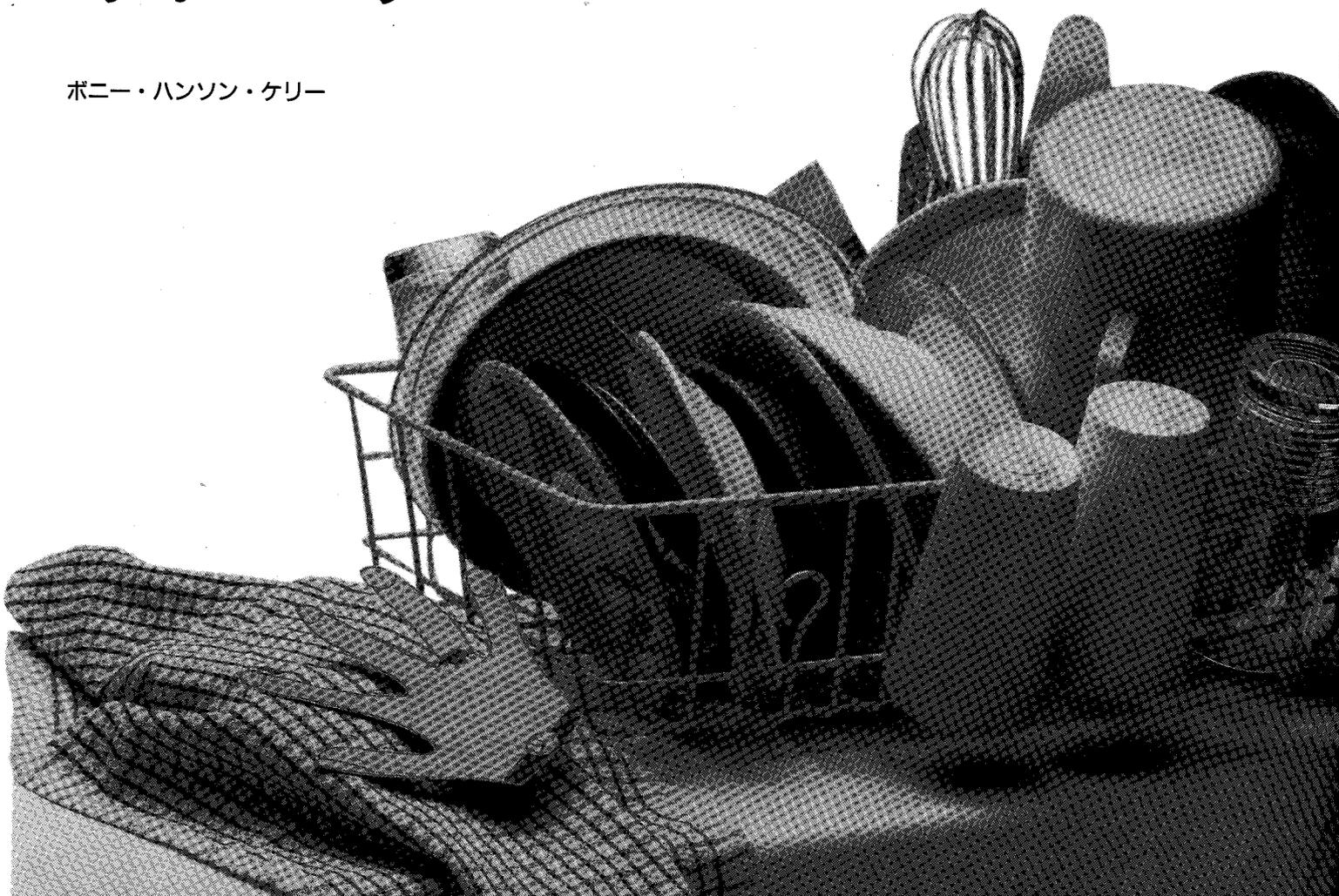
次の週、わたしたちはいつでも家族のだれかに奉仕をしたときには、その奉仕を行った場所の近くに「奉仕の手」を1枚残しておくことにしました。その週は、わたしたち家族にとってほんとうに素晴らしい週となりました。「奉仕の手」が、枕の上に置いてあります。だれかが、ベッドメイキングをしてくれたのです。台所にもあります。だれかが、皿洗いをしてくれたのです。家族の部屋にも残してあります。だれかが、おもちゃを知らないうちにおもちゃ箱の中に戻してくれたのです。

我が家は、これまで家庭の夕べを通して強められ、一致することができました。

永遠の家族になるための準備として、毎週1度ですが、家族で集まる機会に感謝しています。□

# 奉仕の手

ボニー・ハンソン・ケリー





# 神殿での奉仕

ローリー・リブシー

PHOTOGRAPHS BY CHEN CHEN ER; TAIWAN TEMPLE BY FLOYD HOLDMAN



台湾のティーンエイジャーたちは神殿活動を手伝うすばらしい方法を見いだしました。

**奉**仕をしようとする決まて、何かしら厄介なことが付きまといますが、ジェニファー・ワンとチェン・エンジャにとっては、おむつを替えることがそうでした。「あまり楽しいとは言えなかったわ」と、ジェニファーは言います。

けれどもおむつ替え以外には、17歳のジェニファーと18歳のチェンには何の不満もありませんでした。彼らはワードの集会所に小さな託児室を設け、親が神殿に参入するときに子供を預けられるようにしました。「奉仕と小さ



聖靈殿  
歸主為樂  
耶穌基督  
榮耀萬世  
教會

台北北投聖靈殿

屬新約

な子供たちについて、もっと学べて、とてもうれしいです」と、チェンは語ります。というのも、ジェニファーとチェンは二人とも台湾、台北の桃園地方部桃園第2支部の会員でベビーシッターは初めての経験だったからです。そこで感じた喜びから、彼らはこの活動が支部の慣例になればよいと感じて

**子供の心配をせずに親たちが神殿に参入できるので、ジェニファー・ワン（下）はうれしく思っている。**

いました。

台湾では1984年に神殿が建てられました。しかし、この島国では仕事や家族に対する責任のために、会員が神殿に参入することは必ずしも容易ではありません。それでジェニファーとチェンがこのアイデアを思いついたのです。そしてベビーシッターの奉仕をしてくれるほかの会員の助けを得た結果、この奉仕活動に許可が下りました。

「青少年のわたしたちは、午前中に死者のためのバプテスマを受け、それから隣にある集会所に行き、神殿に参入する親に代わってベビーシッターをすることにしました」と説明するジェニファーは、ローレルクラスとセミナークラスの会長を務めています。

10歳くらいまでの子供たちが託児室に連れて来られるので、ジェニファーとチェンは子供たちを年齢別に分けることにしました。子供たちをただおもちゃで遊ばせて、4時間の暇つぶしをさせるかわりに、もう少し教育的に実りあるものにしよう決めました。子供たちに教会のビデオを見せ、遊びの時間を設けたうえで、ジェニファー、チェン、それに残りのベビーシッターたちは『モルモン書』の物語を話して聞かせ、神殿の大切さについても話しました。

その後で、年齢の高い子供たちに神殿の絵を描かせました。こうした過程の中で、子供たちは神殿に対して感謝の気持ちを育てました。

「子供たちと一緒に過ごす時間が学習体験になることを願っていました。彼らを4時間、ただ見守って、したいままにさせる

こともできました。しかし、ぼくたちはもう少し何かをやりたかったのです」と言うチェンは、教会員になって3年たちます。さらに彼はこう述べています。「前から顔だけは知っている子供はたくさんいました。でも、彼らをベビーシッターして初めて、交わる機会に恵まれました。」

「ぼくは子供たちに感動しています。」彼は続けます。「多くの年長の子供たちが年少の子供たちの良い模範になってくれます。彼らは年少の子供たちの面倒を見、ぼくたちを手伝ってくれます。ある二人の兄弟のことがとても印象に残っています。一人は3歳で、もう一人は2歳でした。この二人は独特な個性の持ち主で、それは、子供たちすべてが天父の特別な子供であることを知る助けになりました」と、言っています。

奉仕の機会はジェニファー自身、最も記憶に残った経験です。多くの場合、ベビーシッターの奉仕がなければ、親の一方が子供と一緒に家に残り、片方の親だけで参入する、という状態になることを知りました。「子供のことを心配しなくてよいので、多くの親がとてもほっとしているのが分かりました。彼らは何の心配もせず、神殿に参入できたのです。そして、それは彼らにとって重要なことだと思います。」彼女は、こう付け加えました。「きっと、わたしが結婚して、夫とともに神殿に行きたいと思ったら、わたしのワードの若い男性と女性の子供のベビーシッターをしてくれるでしょう。」

そうなるでしょう。ジェニファーもチェンも、それが可能であることを証明したのです。□





「リーハイの夢」 グレック・K・オルセン画

示現の中で預言者リーハイは命の木を見た。その好ましい実は、神の愛の象徴であった。木まで導いてくれるのは、鉄の棒、すなわち、神の言葉であった。  
信仰深く鉄の棒にすがりながら押し進む人々がいる一方、誘惑によって道を見失う人々もいた。  
この世を示す、大きく広々とした建物からは、真理を見いだそうとする人々を群衆があざけり笑っていた（1ニーファイ8：11章参照）。



「家」にいるときには、  
まことに、あなた  
がたの家のすべての者  
について、朝も昼も晩も  
神に叫び求めなさい。

あなたがたの畑の収穫  
が豊かであるように、作  
物について神に叫び求め  
なさい。

人々の幸いを気遣う気  
持ちを心に満たし、それ  
が絶えず主への祈りにな  
るようにしなさい。」（ア  
ルマ34：21，24，27）

本誌（p.34）では、預  
言者アミュレクの勧告を  
写真によるイメージで紹介  
しています。



# 大管長、ホワイトハウスを訪問

クリントン大統領、ヒンクレー大管長と会談、  
クリントン家の6代にわたる家族系譜書を受け取る



ジョセリン・マン・デンヤー  
北アメリカ北東地域広報スペシャリスト  
ワシントンD.C.発

**去**る11月13日、ホワイトハウスにビル・クリントン大統領を訪ねたゴードン・B・ヒンクレー大管長は、会談の後で記者団にこう語った。「世直しは家庭からということで意見が一致しました。まずは家庭から始めなければなりません。」

ヒンクレー大管長とクリントン大統領の会談は、家庭の問題に終始した。二人の初めての会談は1992年、当時大統領候補であったクリントン氏がソルトレーク・シティーに大管長会を訪ねたときにさかのぼる。教会の大管長がホワイトハウスを訪れたのは、1986年にエズラ・タフト・ベンソン大管長がロナルド・レーガン大統領を訪問して以来9年ぶりである。

「大変和やかな会見でした。」ヒンクレー大管長はそう語る。アル・ゴア副大統領も短時間ではあったが同席した。教会側からは、十二使徒定員会会員で教会広報委員会委員長のニール・A・マックスウェル長老が同行した。

席上ヒンクレー大管長は、9月に大管長会と十二使徒定員会が発行した『家族——世界への宣言』を進呈した。この宣言は、「全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるもの」(Church News 『チャーチニュース』1995年9月30日付け参照)である。

クリントン大統領へのこの宣言の進呈をきっかけに、話題は家庭の大切さに及んだ。ヒンクレー大管長の話によると、クリントン大統領はこの教会指

合衆国のビル・クリントン大統領は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長とともになごやかな一時を過ごした。二人は、教会が作成した大統領夫妻の6代にわたる家族系譜書について話し合った。

ホワイトハウスでのこの会談は、クリントン大統領の招きで1995年11月13日に実現したもので、家族の話題に終始した。こうして二人は、1992年にクリントン大統領がソルトレーク・シティーを訪問して以来の旧交を温めた。

写真/リード・マクレガー

導者たちの主張に敬意と感謝を示したという。「クリントン大統領は最近、家族の大切さについて触れることが多くなっています。わたしたちはその点について話し合い、大統領の意向に謝意を表しました。」ヒンクレー大管長はそう付け加えた。

教会側からのもう一つのプレゼントは、クリントン大統領とファーストレディーであるヒラリー・ロードム・クリントン夫人双方の6代の家族系譜書である。また、娘のチェルシーにも同じものが渡された。ヒンクレー大管長によると、この家族系譜書に大統領は「心からの感謝の気持ちを示された」とのことである。大管長はこう語る。「1枚1枚ページをめくりながら、大統領の先祖について話しました。」

またヒンクレー大管長は大統領にこう語った。「わたしたちは教会で家庭の夕べと呼ばれるプログラムを提唱しています。1週間のうち1晩を割いて、父親、母親、そして子供たちが皆集まって話をするのです。家庭のことや家族みんなのことを話し合い、勉強も幾らかします。」そして、大管長が大統領に、「ヒラリー夫人とチェルシーさんと一緒にこの系譜の本を開いて家庭の夕べをなさってはいかがですか」と勧めると、クリントン大統領は、感謝祭のときにキャンプデビッドに家族系譜書を持参し、自分たちの先祖が残してくれたものについて家族で話したいと述べたという。

ホワイトハウス報道官、メアリー・エレン・グリーンによると、会談は福祉や教育、それに子供の養育に親がもつと積極的にかかわることなど、広範囲に及んだという。

30分の会談の中で政治的な問題は一切話し合われなかった。今後続けて会談が行われるのかとの記者団の問いに対してヒンクレー大管長は、「1996年の選挙キャンペーン期間中に訪問してくださいと期待しています。わたしたちの方ではいつでも大歓迎です」と語った。（『チャーチニュース』1995年11月18日付け）

# 末日聖徒の生活様式は

「もし、すべてのアメリカ人がモルモン教徒の健康的な生活様式を取り入れ、たばこを吸わないなら、癌罹患率は劇的に低下するでしょう」と、癌研究の先端を担う研究者は語った。

全米癌協会の医学研究所副所長であるハーモン・J・アイアー博士は、全米癌協会主催の会議「癌に関する未来プロジェクト-21世紀に向けて」において、「モルモン教徒と癌」という論文を発表した。このシンポジウムは9月18日から20日まで、ジョージア州アトランタで開催された。

『チャーチニュース』の取材に対し、アイアー博士はこう語った。

「活発なモルモン教徒が癌で死亡する率は、ほかのアメリカ人全体に比べてはるかに低いものです。」博士は、活発なモルモン教徒が癌にかかる、あるいは癌で死ぬ率は全国平均の35パーセントであると説明している。

「合衆国内の癌罹患率はこの2、30年上昇し続けています。今年に入ってから現時点まで、合衆国内で新たに癌にかかった人の数は125万人に及ぶとされています。全米癌協会ではこのうちの約3分の2が、いわゆる個人の生活習慣にかかわる要因によって引き起こされていると推定しています。」

研究者たちによれば、近年の目覚ましい医学の進歩にもかかわらず、2000年までに、癌は心臓病を抜いてアメリカ人の死因の第1位になるだろうとのことである。

アイアー博士は論文の中で、ユタ州は人口の68パーセントが末日聖徒であり、統計記録が取られて以来、すべての種類の癌死亡率を合わせた場合、全

米50州の中で最低であり続けている、と述べている。

「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はたばこ、アルコール性飲料、コーヒー、茶の摂取を禁じる健康に関する勧告に従っており、また教育を重んじ、堅固な家庭のきずなを強調している。数多くの調査によって、会員一人当たりのたばことアルコール消費量が少ないことは明らかである。ちなみに、ユタ州に住むモルモン教徒以外の人々のたばこ、アルコール消費量は、全国平均とほぼ同じである。

モルモン教徒の中でも、この健康に関する勧告をどの程度遵守しているかは人によって違いがあり、これらの違いは教会にどの程度活発であるかと深い関係がある。これは男性の場合、どの神権の職を受けているかで最もよく計られる。癌罹患率、癌による死亡率は、ともに教会の戒めをどの程度守っているかによって驚くべき違いがある。」

健康に関する習慣と癌による死亡率についてカリフォルニア州の活発なモルモン教徒を対象に行われた研究と、ユタ州のモルモン教徒の男女を対象にした教会への活発度に関する研究から次のことが言える。

●たばこ、アルコールの関係する癌罹患率と、教会への活発度とは強い反比例関係にある。

ユタ州における癌罹患率と死亡率に関して、入手可能な1966年以降のデータから以下の事柄が言える。

●全米平均と比較して、ユタ州の女性の乳癌罹患率および死亡率はきわめて低い。その理由として、初産の年齢が低いことや経口避妊薬の使用が少ない

# がん 罹 患 率 を 低 下 さ せ る

いことが考えられる。

●結腸癌、直腸癌の罹患率、死亡率が低い理由はほとんど解明されていない。食習慣に関して多くの研究が行われているが、ユタ州のモルモン教徒とモルモン教徒以外の人、また全米平均の食習慣との違いは明らかになっていない。とりわけ、総脂肪摂取量と、果物・野菜消費量とについてはほとんど差が見られず、これらの違いは説明できないようである。

●「ほかの幾つかの研究によって、全米と比較してユタ州の人々が悪性黒色腫と口唇癌にかかる割合が非常に高いことが示されている。これは高緯度に位置することと多くの人々が野外で過ごすのを好むことにより、日光に当たることが多い結果であるという仮説が立てられている。」

様々な研究から、癌にかかわらず死因全般についても、教会員の死亡率は全米平均を下回ると博士は述べている。

全米の死亡率を100とすると、モルモン教徒全体の死亡率は47、教会に活発な男性の死亡率に至っては34である。同様の比較で、循環器系の病気による死亡率はモルモン教徒全体では52だが、教会に活発なモルモン教徒については14となる。

すべての死因を合わせた全国死亡率を100とした場合、モルモン教徒の男性の死亡率は47、モルモン教徒の女性の死亡率は66である。

論文は、結論として、癌罹患率、死亡率に関して、生活様式は非常に重要な部分を占める、としている。今回のモルモン教徒に関する研究のようは、特定の人の注意点を当てた研究は、癌罹患率および癌による死亡数が、人々

の生活様式を変えることによって激減することを明示している。その最も極端な例として、活発なモルモン教徒の男性の死亡率は全国平均に比較して66パーセントも低い。

アイアー博士はこれらの事実を挙げながら、こう語った。「今回のように全国的なフォーラムで、合衆国内の癌を引き起こしているのは、環境が持つ未知の要因ではないことを、きわめて明確な方法で提示したかったのです。」

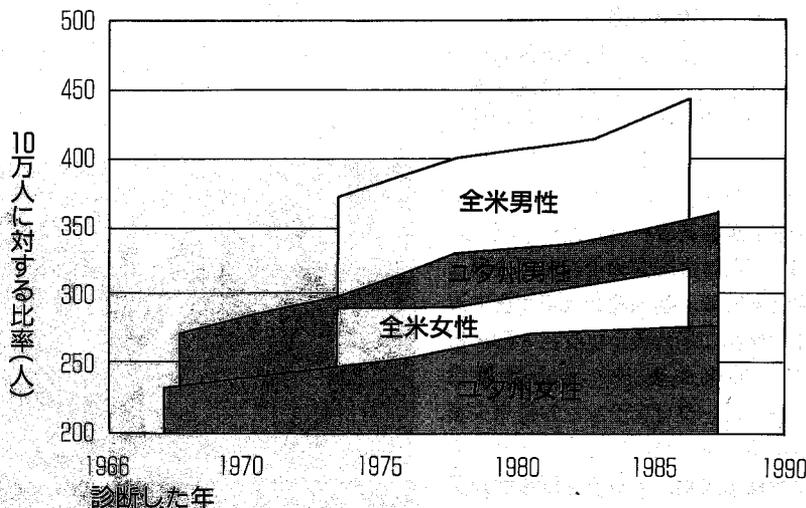
癌の最大の原因はたばこと食習慣であると博士は語る。「癌にかかるかどうかは、自分の選びにかかっていることをわたしたちは知っています。多くのモルモン教徒はたばこについては非常に気をつけていますが、食習慣にはあまり注意していないことも分かっています。」

博士は食習慣に関して、多くの医者が果物と野菜、未精製の穀物をもっと多く摂取し、脂肪分を減らすように勧めていると話し、こう付け加えた。「これは赤身の肉を減らすという意味であり、まったく排除するというものではありません。脂肪を減らすべきなのです。」

また博士は、癌予防のための最良の生活様式として、食習慣とあわせて適度な運動が必要であるとして、次のように語った。

「運動をし、良い食習慣を守る人は、良い食習慣をしていても運動をしない人に比べて、癌罹患率が非常に低いことが分かっています。癌を防ぐうえで、運動は重要な要素だと言えるでしょう。」(Church News『チャーチニュース』1995年10月28日付け)

癌罹患率——ユタ州と全米の比



本表は、全米癌協会、ハーモン・J・アイアー博士の好意により掲載

# 十二使徒定員会会員 ラッセル・M・ネルソン長老を 迎えての 特別ファイヤサイド

●1995年11月11日、来日した十二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老、七十人会長ジョー・J・クリステンセン長老、さらにアジア北地域会長会の指導の下に、アジア北地域訓練集会在東京神殿別館を会場にして開催されました。

また、その日と前後して、それらの中央幹部を招いて教会員と宣教師に向けて、それぞれの特別ファイヤサイドが東京北ステーキセンター（中野、11月10日）、神戸ワード（11月14日）、東京ステーキセンター（吉祥寺、11月15日）で開催されました。これらの特別ファイヤサイドの様子の一部を紹介します。

**19**95年11月15日水曜日の夜、吉祥寺にある東京ステーキセンターで二つの特別なファイヤサイドが開かれました。十二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老の指示の下で開かれたこのファイヤサイドには、奥さんのダンツェル・ネルソン姉妹、七十人会長会のジョー・J・クリステンセン長老とバーバラ・クリステンセン夫人、七十人定員会会員でありアジア北地域会長会第二副会長でもあるサム・K・島袋長老夫妻が出席しました。

ネルソン長老は十二使徒定員会に召される前、ステーキ会長、地区代表、中央日曜学校会長などを歴任しました。

医師であった長老は、世界で最初の心臓切開手術を行った外科医の一人として有名です。ネルソン姉妹との間に9人の娘と1人の息子がいます。

クリステンセン長老は七十人定員会に召される前、教会教育理事長、伝道部長、ユタ州プロボ宣教師訓練センター所長、リックス・カレッジ学長などを務めました。6人の子供がいます。

会員とその友人に向けたファイヤサイドに先立ち、ネルソン長老、クリステンセン長老、島袋長老、およびそれぞれの姉妹は、東京南伝道部の専任宣教師とステーキ宣教師に話をしました。そして、出席した約150人の宣教師一

人一人と握手し、あいさつを交わしたのです。

この集会でネルソン長老は宣教師たちに、福音のメッセージは良いメッセージャーによって伝えられるべきであることを思い起こさせました。そして、宣教師の犠牲と献身の模範として、東京南伝道部で働くポーランドのワルシャワ出身のグリス長老を紹介しました。グリス長老は、教会員になってからまだやっと1年たったばかりです。また、アルマ書第17章から18章には、アルマがどのように宣教師の「決意のパターン」を活用して教えたかが書かれていると、ネルソン長老は指摘しました。

この後、会員とその友人たちに向けたファイヤサイドが、東京ステーキ会長会の主催で行われました。出席者は650人を超え、その中には会員の友人や宣教師に誘われて参加した教会員でない人が50人以上もいました。集会には、最近地域幹部に召された柏倉仁長老と5つのステーキからそれぞれステーキ会長会も出席しました。

ネルソン長老は日本の教会の指導者に感謝を述べ、日本に聖徒の共同体を築き、伝道の責任を果たすために愛と調和の精神で協力して働くよう、神権指導者にチャレンジしました。また、会員と神権指導者に、専任宣教師は会員の伝道義務遂行を助けるために召されていることを改めて強調しました。そして、会員としてわたしたちは、宣教師を助ける義務ではなく、会員を助ける宣教師の義務について語るべきだ

伝道部長セミナー（11月12-14日）に集った日本と韓国の伝道部長夫妻と中央幹部夫妻。前列左2人目からアジア北地域第二副会長レックス・D・ピネガー長老夫妻、七十人会長ジョー・J・クリステンセン長老夫妻、十二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老夫妻、アジア北地域会長デビッド・E・ソレンセン長老夫妻、同第一副会長サム・K・島袋長老夫妻。



と述べました。

次に、もっとキリストのような家族を築き、生活を送るための簡潔な6つのステップを挙げました。

1. 毎日祈る。個人で、家族で、朝晩、そして食事の前に祈ります。ネルソン長老は若い医師として、またステーキ会長として、家族と一緒に定期的に祈るために特別な努力をしたと述べました。

2. 家族で定期的に聖典を読む。そのようにするならば、家族は信仰においていっそう強められると長老は約束しました。そして再び、若い医師として、またステーキ会長として、自分もこの勧告に従うために、時間を作る特別な努力をしなければならなかったと述べました。

3. ふさわしい状態で定期的に聖餐にあずかる。そうすれば、主に近づくことができます。

4. 什分の一を忠実に納める。これは金銭的に豊かになるための主の律法です。ネルソン長老は若くして結婚し、医学校へ通っていたため、お金がほとんどありませんでした。しかし、ネルソン姉妹は什分の一を忠実に納めるべきだと主張し、その結果、二人の考え方が大きく変わりました。什分の一を完全に納める人は、誠実と正直に

ついて学ぶのです。

5. どのような召しを受けても、教会と主に忠実に仕える。たとえ与えられた召しについて何も分からないと感じても、とにかく取り組んでください。そうすれば祝福がもたらされます。

6. 子供たちにイエス・キリストについて教える。創造、墮落、贖いについて、そしてこれらの事柄が互いに関連し合い、現世と永遠の世にわたってわたしたちに喜びをもたらすことについて教えてください。若い男性や女性に、神殿の儀式やそのほかの儀式の重要性を早い時期から教えてください。そうすれば、後で問題が起きることが少なくなるでしょう。先祖を探求し、神殿で結び固めを行ってください。

ネルソン長老は以上の6つの点を要約し、「これらはいずれも簡潔に分かりやすく、もしわたしたちに信仰があるなら難しいことはありません。それに従うことによって、この世の習癖から解放されるのです」と述べました。そして、日本の教会員の家族に、友人たちにとって優れた宣教師となり、その結果、主のぶどう園が発展し、会員たちが日本の国と人々にとって明るい灯台のごとくなれるよう、使徒としての祝福を授けました。(レポーター：グレン・N・ロウ、東京南伝道部長)



東京ステーキセンター（吉祥寺）で話すラッセル・M・ネルソン長老夫妻

ことでした。そしてわたしたちへの愛を伝え、「ありがとうございます」と（日本語で）言ったことを決して忘れないでほしいと言いました。というのも、ネルソン長老はアメリカをたつ3日前にゴードン・B・ヒンクレー大管長と会い、「何か日本の聖徒たちに伝えたいことがありますか」と尋ねたところ、ヒンクレー大管長から「Thank you と伝えてください」と言われたからだそうです。

ネルソン長老は、1995年6月19日に松下長老を神戸伝道部の伝道部長に按手聖任したときのことを回想しながら、松下長老が神から召されたことを証しました。またヒンクレー大管長がクリントン大統領を訪問し、『家族——世界への宣言』を贈呈したことについても触れました。

## 日本をアジアへの窓口として

続いてネルソン長老は会員からの数数の質問に答えていきました。関西地域へのビジョンについて尋ねられたネルソン長老は、教義と聖約第64章33節を引用し、「善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きいなる業の基を据えつつあるからである」と勧告しました。また、この業が偉大であること、日本をアジアへの窓口として考えていること、そしてわたしたちが生きている間に、アジアのすべての国で教会が設立されることを話

## ネルソン長老、神戸伝道部の宣教師に語る

十 二使徒定員会会員のラッセル・M・ネルソン長老を迎えての宣教師ファイヤサイドを開会する前に、ネルソン長老は松下泰洋伝道部長に開会行事を遅らせるよう要請しました。ネルソン長老夫妻と七十人会長会のジョー・J・クリステンセン長老夫妻が出席者全員と握手できるようにするためです。こうしてわたしたちは、礼

拝堂の前に列を作り、握手をする機会にあずかったのです。

### 宣教師全員と握手

ネルソン長老はまず初めに、なぜ開会の前にわたしたち全員と握手をしようとしたかを説明しました。名前を忘れてしまっても、わたしたちと出会ったことを忘れないためにそうしたとの



宣教師ファイヤサイドで話す十二使徒定員会会員のラッセル・M・ネルソン長老  
(神戸ワード)

しました。もし忠実であるならば、キリストとともに住まう日が確かに訪れる、と約束しました。

### 召される者は多いが……

また教義と聖約第121章を引用して、召される者は多いが、選ばれる者は少なく(34-35節参照)、忠実である者はさらに少ないことを改めて強調し、わたしたちにこの忠実な人々の輪に加わるようチャレンジしました。

さらにジョセフ・スミスの言葉を引用して、次のように述べました。「キリスト以上にこの業を理解している方はいらっしゃいません。この業は南北アメリカを満ち、世界中をも満たすでしょう。」この預言の前半は、大方成就していることを指摘しました。教会はアメリカ大陸においてはよく確立されています。預言の後半は現在、成就されつつあると語りました。

### 宣教師への4つの要請

質疑応答を終えてからは、ネルソン長老は宣教師としてのわたしたちに4つの要請をしました。

1. 必ず毎週1回手紙を書いてください。ネルソン長老の息子さんは、ロシアに召された最初の宣教師の一人でした。息子さんは毎週手紙を出しましたが、郵便事情が悪く何か月も届かず、ある日、郵便受けに8通の手紙が一度に届いていたこともあったそうです。手紙が届く度に、家族皆が集まって読み上げました。

教会員でなかった郵便配達員は、ロシアからいつも何の手紙が届くのか尋ねてきました。そこで家に招き入れ、一緒に手紙を読んだそうです。息子さんの手紙は愛、希望、そして成功について書かれていました。息子さんが15キロも体重が減ったことには触れていなかったため、ネルソン家族はほかの人からそれを知らされました。ネルソン長老は、家に届く手紙は『新約聖書』における使徒パウロの手紙のように、永遠の価値がある、と述べました。

2. 同僚を敬ってください。このような同僚が欲しいと思ったら、自らがそのような同僚になってください。証人の律法を成就するために同僚が与えられているのです。

3. 伝道部長を敬ってください。わたしたちの伝道部長は全世界にいる308人の伝道部長のうちの一人です。ネルソン長老はヘブル人への手紙第13章17節を引用しました。「あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのためしいのために、目をさましています。彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない。」

4. 自分を敬ってください。自分を敬い、正直に従順であれば、主はわたしたちを祝福してくださり、わたしたちは幸福になることができます。

(レポーター：トム・ファンズワース、  
神戸伝道部専任宣教師)

## 再組織された 京都ステーキ 会長会

### 「今すぐ、下宿に帰りなさい」という声 が聞こえました

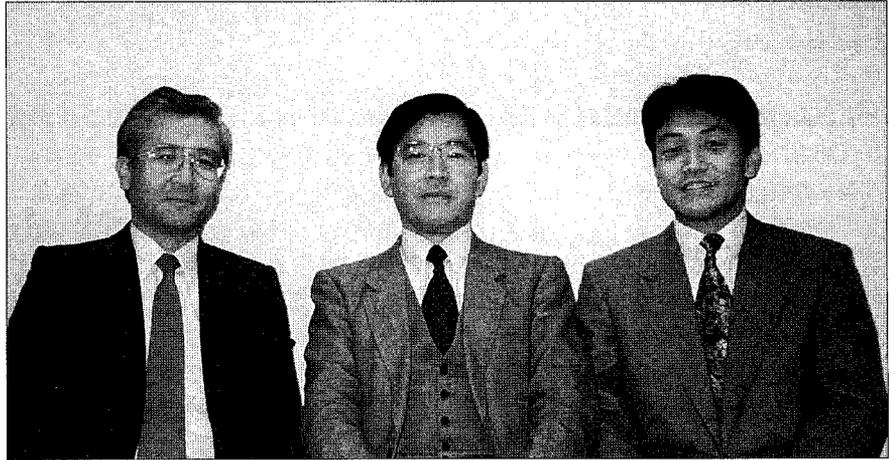
京都ステーキ会長  
梶内啓正

1973年2月の初め、大学の後期試験も終わったころのことです。わたしは下宿を出て、パチンコ屋へ向かおうとしていました。3週間前に宣教師から福音を聞き始めていたのですが、ここしばらく約束を破って会っていませんでした。

### 『論語』や『聖書』を 読みふけていたころ

宣教師と会うきっかけとなったのは、同じ下宿生の友人が神戸から遊びに来たとき「今、おれ、宣教師から福音を学んでいる。おれ、これほんまや思う。ほんまや思う」と言うのを聞いたことでした。わたしは、「『新約聖書』には末日になると偽預言者が出てくると書いてある。一度、おれが行って確かめてやる」と言いました。わたし自身、『論語』や『聖書』を読みふけていたので、知識をひけらかしたいという思いがあったのでしょうか。また、何年も前に教会の近くに下宿していたことがあり、一度だけ宣教師からお話を聞いたことがあったのです。当時高慢だったわたしは、14歳の少年に教会が作れたのだったら、自分だって作ってみせると思い、それ以上進まなかった

昨年11月5日、アジア北地域会長会会長のデビッド・E・ソレンセン長老管理の下に開催された京都ステーキ大会で、1993年4月よりステーキ会長の責任を果たしてきた木村研一郎兄弟が解任され、新たに梶内啓正兄弟（写真中央）が召された。ステーキ第一副会長には吉岡和一郎兄弟（写真左）が、ステーキ第二副会長には橋輝兄弟（写真右）が召され、その任に当たる。



のです。

その週のうちに教会に行き、出会った人に、教会について話し合いたいと申し入れました。ヒル長老とミラー長老という二人の宣教師に紹介されたわたしは、早速、『新約聖書』にはこう書いてある、この教会は悪魔の教会ではないか？ と問いました。長老たちは驚いたようでしたが、とにかくレッスンを聞いてほしいと言います。わたしは了承しました。しかし、直接の答えが得られず、はぐらかされた印象があって、4回目のレッスンの約束は破ってしまいました。

大学の後期試験も始まろうとしていたこともあり、それっきり宣教師のことは忘れていました。そういった状況で、その2月の初めの朝になったのです。

### 不思議な声に従って

京都の金閣寺のすぐ南に、わら天神という場所があります。わたしはそこにある下宿から約700メートル南の北

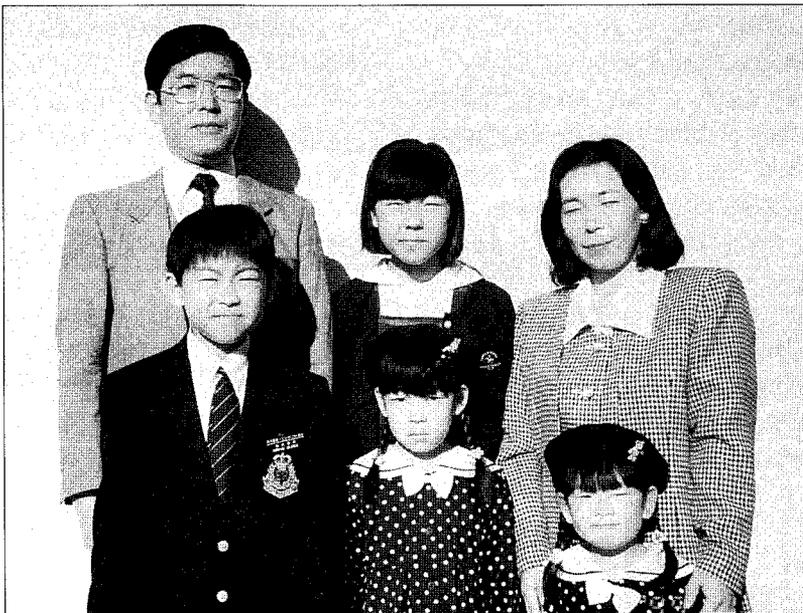
野白梅町にあるパチンコ屋へ向かっていました。北野白梅町に近づきパチンコ屋が目になったとき、わたしの心の中で声が聞こえました。「今すぐ、下宿に帰りなさい。」これまでの経験から、こういう声に従うと必ず良いことがあり、逆らうと非常に嫌な気持ちになるのを知っていましたので、やむなく帰ろうとしました。帰りかけたとき、50メートル東にある本屋がわたしの目に入ってきました。本が大好きなわたしは、思わずそちらに向かおうとしました。すると、また「今すぐ、下宿に帰りなさい」という声が聞こえました。わたしは訳の分からないまま、下宿に帰りました。

自分の部屋に入り、こたつに足を入れると、すぐに大家さんの呼ぶ声がしました。「梶内さん、外人さんが来てはるよ。」出てみると宣教師たちでした。後で宣教師たちの話を総合すると、二人の宣教師は、わたしが以前書いた不確かな住所を手にも、わたしを捜し

回っていたそうです。1時間が経過しましたが、わたしの下宿は見つかりませんでした。宣教師たちには別の約束の時間が迫っていました。ついに二人は決断しました。もし、次の所にいなければ、もうあきらめようと。そして、ここが最後と決めた家の戸をたたきました。その家がわたしの大家さんの家でした。ところが留守で、だれも出て来ません。二人はあきらめて、帰りかけました。ちょうどそのとき、大家さんが帰って来たのです。自分自身もカトリックの信者である大家さんは、二人の外国人に好印象を持ってくれ、「梶内さんならうちの下宿にいますから、聞いてあげましょう」ということになったのです。

このことがあってから、わたしはレッスンに身を入れ、長老たちの話を聞くようになりました。それまでも不思議な声の言うとおりにすると、必ず良いことが起きていたのです。長老たちと再会したのは、まさしく「良いこ

梶内ご家族



### 梶内啓正ステーキ会長の紹介

1949年兵庫県姫路市生まれ。1973年に改宗。立命館大学理工学部卒業。1982年に藤原鈴代姉妹と結婚。息子1人、娘3人がある。京都市内の私立高校の教員。これまで教会ではステーキ副会長、高等評議員、監督、副監督、支部長を歴任している。大津ワード所属。

と」に違いないのです。こうしてわたしは誕生日の1週間前、ヒル長老の京都滞在最後の週となる2月17日にバプテスマを受けました。

もし、宣教師がわたしの下宿を捜すのをあきらめるのがもう少し早かったら、今のわたしはないでしょう。あきらめずに捜してくれたことに、ほんとうに感謝しています。また、もしわたしがあの声に従っていなかったら、やはり今のわたしはないでしょう。高慢

でかたくななわたしに、神様は最善の導きを与えてくださいました。

この経験から半年ばかりして、教会は真実だという証<sup>あかし</sup>を得ていたのに、ある決心の下、教会を離れたときも、同様に不思議な経験をして戻ることができました。

わたしの前任者、木村研一郎兄弟は、器の大きなすばらしいステーキ会長でした。わたしには、彼のまねはできません。しかし、御<sup>みたま</sup>霊の導きに従えば、

主の業を進められるのを知っていません。

「あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」(2ニーファイ32:5)

この教会は真実です。この教会にはまさしく御霊があります。御霊に導かれる教会であることを証します。(かじうち・ひろまさ)

## 30歳を過ぎての留学体験記

—「主の助けがあれば何でもできる」—



岡山伝道部  
松山地方部  
今治支部  
小百合・スコット

アメリカに渡ったのは、伝道を終えた翌年、1989年の夏でした。伝道中すばらしい会員と求道者の模範を目にし、宝石のような人々に出会えたと同様に、アメリカでも良き人々にお会いして、たくさんの教えを受ける機会があったので感謝しています。

伝道から帰る1か月前に、30歳の誕生日を迎えたわたしは、帰還後、将来についていろいろ考えました。結婚の予定もまったくなく、自立するためにはさらに教育が必要だと感じたわたしを渡米に踏み切らせたのは、「自分は宣教師だったのだから、主の助けがあれば何でもできる」という信仰でした。学業から遠ざかって久しいわたしが、まったく学んだことのない「ダンス」という学問を外国語で学ぶのは最初から困難が予想されましたので、背水の陣で臨む決意をし、日本ではTOEFL(外国留学英語能力テスト)に備え、

渡米してからは英語学校に通いながら、大学院に入るためのGRE(大学院入学共通試験)のため猛勉強しました。

「主の御手<sup>みて</sup>によって導かれて来るのでなければ……」

留学先のプロボ市に移った当初は、百数十年前まで砂漠だったとは信じられないくらい美しい街とBYU(ブリガム・ヤング大学)のキャンパス内の施設のすばらしさに驚きの連続でした。ある日曜日、日本とは比べものにならないほど多くの教会員の若者とともに集会に出席していたとき、わたしは感激のあまり、涙を抑えることができませんでした。「主の御手によって導かれて来るのでなければ、だれもこの地に来ることはできない」(2ニーファイ1:6)というリーハイの言葉を思い出し、主はこれらの光景を見せるためにわたしをはるばるここまで導いてくださったと感じたからです。

大学に入るまでも入ってから、予想にたがわず厳しい日々が続き、毎週泣きたくなるようなことばかりでした。自分の能力をはるかに超える割り当て、迫る締め切りから来るストレス、睡眠不足、外国語で自らを自由に表現できぬいらだち、文化と年齢差のあるルー

ムメートとの関係、そして頭痛がするほどの孤独感。地面に伏さんばかりに、「わたしはもうこれ以上できません」と主に叫ぶ日が4年近く続きました。それらの日々を何とかやってこられたのは、いつもわたしを励まし助けてくださったダンス学科のジェイコブソン博士をはじめとする教授陣(わたしにこの世の知識を与えてくださっただけでなく、霊をも養ってくださった)や、わたしと同じようにあえぐクラスメートたち、そして日本から応援してくれた家族と友人たちのおかげです。

最初の学期に取ったコニシオロジー(運動衛生学)は、わたしが大学院で学ぶ動機を試すに十分手ごわい教科でした。数学、物理、生理学、解剖学の予備知識を必要とするのに、数学と物理をはるか14年も前に学んだ以外に知識のないわたしが、聞き取れない英語の授業についていくのは至難の業でした。もし一人一人の生徒のために時間を取って丁寧に説明して下さるディトソン先生の助けがなければ、最初の学期であきらめて日本に帰っていたのではないかと思います。

その学期末試験の早朝、わたしが教室で見たのは机といすを整え、紙ナプキンと紙コップを並べてジュースとドライフルーツを一人一人の生徒に配っていくディトソン先生の姿でした。求めれば惜しみなく教えてくださり、最後の試験日にまで生徒に仕える先生を最後の晩餐<sup>ばんさん</sup>で弟子に仕えた主と重ね合

国際化時代という掛け声の中、留学という形で海外へ出る若者も増えている。今治出身で、アメリカ・ユタ州のプリガムヤング大学助手の伊藤小百合さんに、米国のキャンパスライフについてレポートしてもらった。伊藤さんは一九九一年二月、愛媛新聞に「アメリカで学ぶ」を連載しており、今回はその続編。

# 続 アメリカに学ぶ

伊藤小百合

① に交じって、言葉と文化という厚い壁があるのを承知で、それに挑む若者は大変と言ったり必死で立って、それを勝ち取るには代価を要求される。金では代価がきつ、努力と心遣いが必要である。一方、志をもとも持たぬ者が、焦ることなく、適当にやっていると、遊びに来た人は、ゆっくりアメリカの方が楽だろうと、高をくくって受験戦争をスルリとかわしたつもりだからである。若い時、外

に入った。日本で本格的にダンスを学んだわけではない私を最初に待っていたのは、生理学とかモダンダンスという、見たことも聞いたこともない教科だった。毎学期、パニックに陥ったのも無理はない。全く予備知識のない学問を学ぶために英語の文献と格闘するのは、大変と言ったり必死である。あえながら一日一日を重ねてきた。

クラスメートとポーズ(筆者右)



## 勉強厳しい大学

### 厚い言葉の壁 努力あるのみ

昨今の田舎に便乗して太平洋を渡った若者も多いのではないだろうか。格安航空券を使って旅行や語学留学に出かけるのは、比較的やさしい。アメリカは日本に比べて物価がバカみたいにあいし、広々としているし、気候もカラッとしてい

る所が多い。体形の良い、目鼻立ちの整った金髪の人々を多く見ると、外国映画の中に迷い込んだ錯覚に陥るかもしれない。それらの観光客や遊学者

の者は、入ってから自分の思い違いを思い知される。日本は入試という難関を通ればあとほとコロテン式だが、アメリカの大学は毎学期が受験のようなものである。言葉のわからない者が、その土地の言葉と方法をたけつて肩を並べて行くには、余程の努力が必要だ。

私は三十歳でアメリカに渡り、三十一歳で大学院に入った。それを経験だ。きつ

はその人の人生を見えない形で豊かにすることだろう。私の場合は、偶然と外国でゆっくり暮らすわけにはいかなかった。自分は若くない。さまざまな犠牲を払って来たのだから、学位だ

はどのようにも持って帰らねばというがけつぐみちの心理状態だったのだ。簡単に手に入れた物は簡単に手離してしまう。簡単にいれてもらったからと言って、簡単に辞めしてしまうのはどうだろうか? 外国で学べる特権に感謝して、いかに耐えても

わせていました。感謝の念と感動が込み上げて、先生がわたしの机に来てほほえまれたときは、ひそかに泣いてしまいました。後に聞いた話ですが、先生自身、家庭を持ち、フルタイムで教師として働くと同時に博士号取得のために懸命に学ぶ、わたしたちと同じ一人の生徒だったのです。

### 「人々が信仰を持った後に」

卒業間近い春、わたしは以前振り付けたダンスを作り直し「祭りスイート」と題して発表したい気持ちにかられました。春は生徒がそれぞれの故郷に帰り、生徒数が4分の1、5分の1に減る時期です。その時期に、男女8人ずつのダンサーを見つけるのが困難なことは最初から分かっていた。特に8人もの男性を見いだすのは、BYUといえども不可能に思えました。発表はしたいけれど、もし十分な人を見いだせないならば……。

なかなか決心できないわたしに、ある教授が言ったのです。「サユリ、信仰はないのですか。」「あ、ありま

す。」苦しい返事でしたが、そのとき、信仰を持とうと決意したわたしは、男性ダンサー獲得のためにありとあらゆる手段を講じました。ポスターを構内にはったり、男子体操のクラスに乗り込んで希望者を募ったり、友人の伴侶に頼んでみたり……。

そうこうするうちに、やっと8人集まったものの2週間して二人が辞め、初心者のダンスクラスを訪れて、かろうじて補充することができました。

練習も順調に進み、公演まであと2週間というときに、一人の男性が水ぼうそうにかかり、もう一人も足を痛めて松葉杖が必要になりました。わたしは神殿に行って祈りましたが、公演までに回復するには至りませんでした。しかし助けはあるものです。高度の技術を持つ二人の男性が見つかり、わずか1週間で振りを覚えてもらい、ついに予定どおり舞台にのせることができました。ダンサーたちの中から結婚するカップルができるというおまけもありました。「人々が信仰を持った後に、あなたは働かれます」(エテル

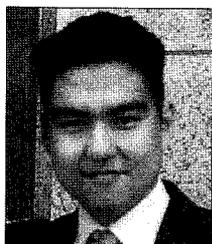
12:30)とあるように、まさに人が信仰を得てから、神の働きが始まったのです。

卒論も口頭試問も終え、日本へたつ1週間前に、スコット兄弟に結婚を申し込まれ、1年間の文通を経て一昨年の8月にプロボ神殿で結婚しました。そして、1年のアメリカでの結婚生活を終え、昨年の夏、日本に帰って来ました。主人は絵描きで分野は違いますが、芸術について同意するところが多いです。自信がなく、いつまでも生徒として学び続けたいわたしに「そろそろ外に出て、振り付けや指導を始める時ではないか」と励ましてくれます。日本ではまだ親しまれていない、モダンダンスを子供たちに教えようと考えています。

わたしがBYUから受け継いだダンスという貴い芸術と福音に、多くの人々に触れてもらい、理解してもらう機会を持っていただくために、力を注ぐつもりです。わたしは再び宣教師になった気分です。(さゆり・スコット 支部初等協会教師)

## 『モルモン書』の言葉と真理は わたしにとって強烈でした

——ユタ州でのホームステイを転機に——



福岡伝道部  
専任宣教師  
小野真吾

**教** 会員の家庭で生まれ育ったわたしにとって、伝道に出るために必要な環境はすべて用意されていました。両親の許可、助言、友人の励ましなどほんとうに恵まれた環境にいました。それにもかかわらず、わたしは伝道に出たいとは思っていませんでした。

中学生のころまでは家族と一緒に教会に集っていましたが、高校生になりクラブに入るとそうもいなくなりました。毎日がクラブ中心の生活となり、ほかのことを考えられなくなったからです。クラブによって得たことはたくさんありました。ほんとうの友情、一致の精神、助け合いの心、目標へ向かう姿勢、達成感など、普段学べない様々なことを学びました。

しかし、失ったものもありました。家族への愛、神様への証、霊的な糧は3年間で瞬く間に落ちていきました。わたしは霊的な糧を得られなくてもかまわないと思っていました。というのは、クラブによって学び得たことに満足し切っていたからです。そして、この時点で伝道に行くつもりはまったくありませんでした。

クラブを引退してすぐに、ユタ州ソルトレーク・シティーにホームステイ

する機会がありました。その家族との1か月間の生活が、わたしの人生にとっての決定的瞬間となりました。ヤング家というその家族が生活の中で示してくれる一つ一つの模範に、わたしは引かれ始めました。特に引かれた部分は、彼らがいつも幸せそうな顔をしていたことです。その笑顔は、わたしがクラブをしているときに出てくるものと少し違っていました。何かそれ以上の不思議な感じを受けました。その幸せはどこから来るのかずっと考えました。ある日、彼らの幸せはイエス・キリストの福音に基づいた生活にあるのだと気づき、生まれて初めて、福音を自分から学びたいと思うようになりました。

### 今までに感じたことのない 温かさを経験

その日から毎日、聖文を学び、祈り、真実かどうか確かめようと思いました。しかし、はっきりとした確信を得ることはできませんでした。その後も答えを求め続けました。そしてある日、モロナイ書第10章3節から5節を読んだとき、そこに書かれていることを実行すべきだと強く感じました。わたしはひざまずき、『モルモン書』が真実の書物かどうか主に尋ね求めました。すると今まで感じたことのない温かさを経験し、涙があふれ出ました。そして、『モルモン書』が真実の書物であるとはっきり分かったのです。

また、福音によってほんとうの幸せ、喜びを得られることを知りました。そ

のとき、わたしは伝道に出て人々にこの幸せのメッセージを伝えたいと強く望み、まず、自分の不従順さを悔い改めようと思いました。

『モルモン書』を読む度に、1節1節が心に刺さりました。『モルモン書』を読み続けることはとてもできないと思いました。それほど『モルモン書』の言葉と真理はわたしにとって強烈でした。しかし、アルマ書第36章を読んだとき、わたしは主がアルマを赦されたように、わたしも赦して下さるに違いないと思いました。わたしはアルマの息子のように変わろうとしました。

それからというもの、わたしは毎日伝道に出るために準備をしました。大学を休学することや人間関係の問題もありましたが、両親の助けによって一つ一つを乗り越え、無事福岡伝道部に召されました。

### 伝道を通してほんとうの 改宗を知る

今まで大分、熊本の2か所に行き、5か月を過ごしました。この5か月間、同僚を5人頂いて、それぞれの同僚から違うことを学びました。主に対する従順さ、愛、自発的な伝道、謙遜、大胆さを学び、自分自身の成長にとってとても大きな影響を与えられたと思います。そして何よりも素晴らしいのは、人の人生が変わるのを見ることです。

大分にいたとき、ある一人の男性が主の福音を受け入れて改宗する過程を見てきました。人の改宗の過程を見ることで、改宗者ではないわたしも、ほんとうの改宗が何であるか知ることができました。

熊本に来てからも、主のため人のため働きたいと努力しています。わたしはまだまだ弱く、十分な働きはできませんが、主のために時間をささげ、すべてをささげるときに大きな喜びがも

たらされることを知りました。伝道はほんとうに主の業であり、絶えることはありません。このすばらしい業に携われる機会に感謝しています。またわたしを支えてくれた家族に感謝しています。

若人の皆さん、ぜひ伝道に出てください。伝道を通してほんとうの改宗を

知り、より多くの愛を学ぶことができます。そして、証を強め、自分自身の土台を強めることができます。

わたしは、これからもとどまることなく伝道の業を推し進める一人の担い手として歩き続けたいと思います。(おの・しんご 横浜ステーキ川崎ワード出身)

きです。疲れ切って、体のあちこちらが痛かったのが、びたっと収まったのです。心に光がさし、もうつらくて泣くこともなくなりました。

毎月、天のお父様に「ただいま」と言って神殿に行き、「行ってきます。来月、もっと成長して元気になってまた来ます」と言って帰りました。実際、それからはとても祝福され、夜行バスを使って神殿に行けるほどになりました。ますます元気になって毎月、神殿に来るわたしを見て、多くの神殿宣教師の方が喜び、励ましてくださいました。病気について考えるとき、神様の愛を感じます。厄介なこともあります。この病気のおかげで、少しなりとも神様に近づくことができましたようです。

また、いつの日か白い服を来て、家族と神殿に参入している姿を想像しながら、その日のために祈り続けています。系図を探求することによって家族への愛も増し、親子関係は信じられないくらい良くなりました。このように身も霊も様々な祝福を受け、神殿はわたしにとって特別に大好きな所となりました。

## 「心をつくして主に信頼せよ」

——主は方法を備えてくださいました——



仙台伝道部  
専任宣教師  
藤田早苗

専門的に学べる所をと考え、結局、名古屋の大学院を受験しようと決めました。自分の学力では難しいと思いましたが、祈って、これは御心だと強く感じたので受験し、そこに進学できました。

名古屋での生活は、学校でも教会でもとても充実した日々で、両親も安心していました。また毎月神殿に行くことで、家族のことで健康面でもとても祝福されました。

### 「あなたの信仰により癒されます」

わたしには小さいときの交通事故の後遺症があって、腰が悪く疲れやすいために外泊ができず、大学に行けないときもありました。また、上半身はアトピー性皮膚炎のためにポロポロで、つらくて「肉体なんか要らない、早く天に取り上げてほしい」と何か月も毎日泣いていました。それでも神権の祝福を受ける度に言われた「あなたの信仰により癒されます」という言葉を信じ、いつか元気になって伝道に出たいという望みは捨てていませんでした。

できる治療を行いながら、もっと神様の力を得たくて、すがるような思いで神殿に行き始めました。しばらくして、自身のエンゲウメントを受けたと

### 大学院を休学して伝道に

大学院の修士課程の2年間さえ無事卒業すれば両親は伝道を許してくれるかもしれないし、体も治療を続ければ卒業するころには何とか伝道に堪えられるようになるのではと卒業することばかりを考えていました。

修士課程の1年が終わるころ、あることで神権の祝福を受けました。そのとき、まったく予期していなかったのに、「近いうちに伝道に出られるように祝福します」と言われました。来年卒業して行くから「近いうち」かな、と、そのときはあまり気に留めませんでした。それから幾ら勉強をしようと頑張っても「わたしは何をしているんだ、これでいいのだろうか」という

**高** 校生のとき、実家の大阪堺市で英会話をきっかけに福音を学ぶようになり、大学1年生のときに、三重県の津市でバプテスマを受けました。

大学での4年間、様々な責任や経験を通して成長させていただきました。特に宣教師のお手伝いをする中で彼らから霊的な力を受けました。そして、自分も必ず宣教師になりたい、そのためには……と、いつも何かを選択するときには「伝道」を念頭に置いていました。

大学4年生になり、進路を決めるときにも、バプテスマに大反対で、ともに大学で教鞭きょうべんを執る両親から伝道の許可を得るには、納得してもらえない大学院への進学が必要と考えていました。また、毎月行こうと決めていた神殿に少しでも近く、病気の治療を受けやすく、インスティテュートハウスがあり、専攻していた国際人権や途上国問題を

思いがわき、それが日増しに強くなって落ち着かない日々が続きました。

責任と勉強のバランスが取れていないためではと思い、苦しいので監督に祝福をお願いしました。それまでに頂いたことのある「責任で頑張れば勉強もうまくいく」という祝福を期待していたのですが、主の答えはまったく違いました。それは「あなたの考えと主の思いは違うのです」というものでした。

最初、何のことか分からず、ずっと考えました。「わたしの考えは、卒業して伝道に出ること。では主の考えは何？ 今伝道に出ること？」そう思った途端、心の中にうれしい気持ちがいっぱいに広がり、それが御心であると分かりました。あまりにも突然のことで、わたしは否定しなかったのですが、何度祈っても結局答えは同じでした。

今伝道に出る。両親が何と言うか、大学院の休学なんてほとんど無理なのに。退学か。まだ健康の問題があるのに、1年半大丈夫なのか。そんな問題が頭に浮かび、何週間も悩みました。

### 前もって方法を備えずに命じられることはありません

しかし、やはり主は前もって方法を備えずに人に何かを命じたりはなさいません。まず母に話そうと思いつながらなかなか勇気が出せずにいたある日、教義と聖約第2章のエリヤが訪れて結び固めの力の鍵を授けるところを読んでいたときです。心で「系図と神殿の業をしてきたのだから、必ず助けがあります」という声を聞いた気がしました。

そうか、2年間毎月神殿に行ってきたのだし、助けがあるはずだ、と勇気を出して母に話しました。すると、ある程度予想していたらしく、母は「生きがいならしかたないね。ちゃんと休学できるといいけどね」と言ってくれ、

これがバプテスマの許可には猛反対した母の言葉かと、信じられませんでした。確かに助けがありました。

次は大学院の休学です。それには指導教官の許可が必要でしたが、わたしの大学で院生が伝道のために休学した前例はなく、許可が得られるかとても不安でした。そんなとき、夢の中で、ある教会の指導者に「こんなことでどうする。もっと苦勞して伝道に出ている人がいるのに」としかられ、勇気を出して次の日話しに行きました。

### 一人の兄弟の模範

そこで先生がおっしゃったのは、「8年ほど前、岡山大学で教えていたとき、同じようにモルモンの学生で、2年間北海道で伝道して帰って来てきちんと卒業した人がいたのでよく分かります。あなたの意志を尊重します。頑張りなさい」ということでした。わたしは驚きと感謝で言葉が出ませんでした。

神様は8年も前からわたしがこの時期、この場所で、この先生の下で休学して伝道に出ることを御存じで、一人の兄弟の模範を通して必要な備えをしてくださっていたのです。その兄弟にほんとうに感謝しています。わたしたち末日聖徒は、いつ他人や、後に続く者に影響を与え、主に使われるか分からないのです。一人一人重要な責任を担っているのだと思いました。

このように主は方法を備えてくださっていましたが、もしわたしが自分の考えで、今は無理だと判断していたら、それらの祝福はすべて水の泡だったのです。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。」(箴言3:5) 主に信頼することの大切さを痛感します。

### 祝福された健康

それから1994年9月、仙台伝道部に

召され、任命のとき「健康も祝福される」と約束を受けました。体が変わったのがはっきり分かり、それまで眠っていた霊的なものへの感知力が呼び覚まされたようでした。

念願だった専任宣教師の生活は実に素晴らしいです。自分の弱さを知り、心から悲しんで主に頼り、贖いの力で引き上げられていくのです。時間、お金、体力など、すべて主から与えられたものを使って成長させていただくのです。

伝道前に周囲のみんながいちばん心配していた健康も祝福され、冬は伝道部でいちばん寒いと言われる岩手県の盛岡市で無事に過ごし、氷と雪の上を自転車で行きながら何度も神様の守りを感じました。

またいつも同僚や仲間の宣教師の愛に助けられてきました。そして何よりうれしいのは、伝道地という特別な故郷で人々が福音によって変わるのを見て、永遠の友達という宝を頂くことです。

### 福音は人を変えます

自分を愛せず、生きがいもなかったある大学生がいました。自分が神様から愛されていることや、たくさんの可能性があることを知って、次第に変わっていき、バプテスマを受け、今は小学校の先生になる準備をしています。福音は人を変えます。わたしはこのような特別な友達と大好きな神殿でこれからもずっと会えるのをとても楽しみにしています。

毎日名札を胸に付け、日本人として日本で伝道できることを、また、こんな未熟なわたしを導き、忍耐をもって使ってくださる主の愛に感謝しています。(ふじた・さなえ 名古屋西ステーク御器所ワード出身)

# わたしのカムバック物語

——神様を身近に感じたボクシングの試合——

東京北ステーキ浦和ワード ビニー・マーティン

わたしがボクシングと出会ったのは今から7年近く前になります。ちょうど長男が生まれて、妻の実家に世話になっているときでした。実は、わたしはサッカーが大好きで、あるクラブチームに所属していました。また、浦和レッズが選手を一般公募したときにはほんとうにプロになるつもりで応募しました。残念ながら合格はしませんでした。もし合格していたら今の自分ではなかったのではないかと思います。

妻と出会ったのもサッカーがきっかけでした。たまたま試合の応援に来ていた若いすてきな女性が目に留まりました。その時からつきあいが始まりました。そして一緒にになりたいと思うようになりましたが、周りの反対は強く、とても難しい状況でした。しかしわたしたち二人はその反対を乗り越え、無事に結婚することができました。

## プロボクサーへの道

結婚してから家族を守らなくてはいけないという気持ちがありましたが、長男が生まれてからは特にその気持ちが強くなりました。しかし、その気持ちとは裏腹にいろいろなものがわたしの気持ちを萎えさせました。それまでは合気道を習っていたのですが、仕事の帰り道にボクシングジムを見つけ、通うようになりました。そのときは、プロになってリングに上ることになるとは思っていませんでしたが、ジムのマネージャーがプロになるためのテストの申し込みをしていました。筆記試験は当然のことですが、全部日本語で大変でした。その後、実技の試験がありました。無事に合格し、プロボクサーとなりました。そして一昨年4月にミドル級の王座に就くことができましたが、翌月に行われた初防衛戦では

相手が地元ということもあって判定負けしてしまいました。

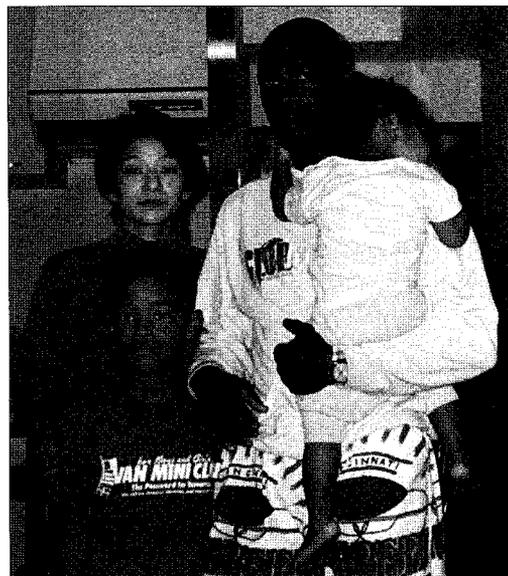
運が悪いことに、その試合後の5月の連休明けに交通事故に遭ってしまいました。後ろから追いついた車が、ウイinkerを出して曲がろうとしたのですが、ウイinkerと反対の方向に曲がりだしたのです。「あっ！」と思ったときにはもう相手の車の横っ腹にぶつかっていました。わたしはフロントガラスに頭をぶつけ、病院に運ばれて、額を25針も縫うけがをしました。

幸いにも入院をせずに済み、けがの方も、2週間で治りましたが、お医者さんや周りの人たちはわたしの回復の早さに驚いていました。自分では、大丈夫と思って復帰しようと思ったのですが、幾ら何でも試合をするのは無理だと周りが反対しました。先生も、普通なら何週間か入院するようけがなのだからやめなさいと言われました。また、当分の間、ボクシングは控えた方が良くとも言われました。

## 宣教師との出会い

何か月かたったとき、町で一人の宣教師と出会いました。そして1冊の本をもらいました。それは『モルモン書』でした。そしてその宣教師は浦和ワードの電話番号を教えてくれたのです。こうしてわたしは浦和の教会に集うようになり、宣教師から福音を聞いて、1994年11月20日にバプテスマを受けました。

もともと、家族に対する思いは強かったのですが、バプテスマを受けてからさらにその思いは強くなりました。それと同時に大好きだったボクシングのことが気になりだしました。事故に遭った後はもうやめてしまい、前のようにサッカーを楽しんだり、子供に教



マーティンご家族

えたりしようかとも思いました。カムバックすることについてはいろいろと悩みました。ブランクがあるうえに年齢も若くありませんでしたが、もう一度リングの上に立ちたいという思いは強くなるばかりでした。前回の試合は不本意でしたので、中途半端な状態では終わりたくないと思いました。そして昨年6月13日に試合をすることが決まりました。

## 教会員の励ましを得て

トレーニングのメニューをこなし、減量も何とか順調にきました。しかしブランクの期間が1年2か月もあり、とても不安でした。試合の3日前に長老定員会会長会の兄弟たちがやって来て力強い握手をし、祝福してくださいました。これで、心が落ち着いてきました。

試合の当日、控え室にワードの兄弟がやって来て声をかけてくれました。「みんな応援に来てよ。頑張る。大丈夫だよ。」その言葉で、今までの緊張がすっと取れました。みんな来てくれているんだ。一人じゃないんだと強く感じました。そして、イエス様がそばにいてくださっているようにも感じました。リングに上がると、いろいろな人の顔が見えました。たくさんの人が応援に来てくれているのだなと思うと、頑張ろうという気持ちが強くな

りました。

### リングで感謝の祈り

対戦者はハードパンチャーで、周りの人には大したことはないと言っていました。内心はドキドキしていましたが、正直言って勝てるとは思いませんでした。1ラウンドでパンチを受けてダウンしました。5ラウンドでもダウンを喫しました。しかし、何とか盛り返し、勝つことができました。リングに手を置いて神様に感謝の祈りをささげました。

何をしても近くに神様がいてくださると感じました。そして「知恵の言葉」にも感謝しています。なぜなら、

この戒めのおかげで友達から飲みに誘われても断ることができ、試合に良いコンディションで臨むことができたからです。もともとお酒は飲む方ではなかったのですが、長いブランクの間に誘われるままに飲んでいたらカムバックは難しかったと思います。

### 今は家族で教会に

試合が終わってから妻が教会に行ってみたいと言い出しました。最初は興味がなかったようでした。しかし、神様はいると機会があるごとに話をしていました。そして、いつかきっと関心を持ってくれると思っていました。神様は、わたしの願いを聞いてくださり、

今は家族で安息日に教会に集うことができるようになり感謝しています。

何か悩みがあると、一人になって神様にお祈りをします。わたしはどうしたらよいのでしょうか。一言でも答えを下さいと。また『旧約聖書』の詩篇第4篇が大好きで、神様の近くにいられるようにとの思いを抱きながらいつもそこを読みます。わたしは今度の試合を通して神様を身近に感じ、教会の人たちの愛を感じることができて心より感謝しています。

現在は、ジュニア・ミドル級のランキングは5位です。今後も頑張りたいと思います。(ビニー・マーティンワード 神権会指揮者)

## 「真理の柱」となれるように

### ——長年の念願であった教会堂——

沖縄那覇ステーキ首里ワード 宮良 毅

「首里の地へ教会堂を」というのは、会員の長年の念願でした。1971年、首里の地に伝道所として教会が置かれて以来24年間持ち続けた夢でもありました。

土地財産を容易に手離さない土地柄

ゆえに、用地取得に難渋しました。その間、所長、支部長、監督と5人の方方（そのうち二人は2度その任にあった）が首里の隅々まで不動産情報、一般情報を求め、ひよっとしたらという思いで土地探しに駆けずり回りました。

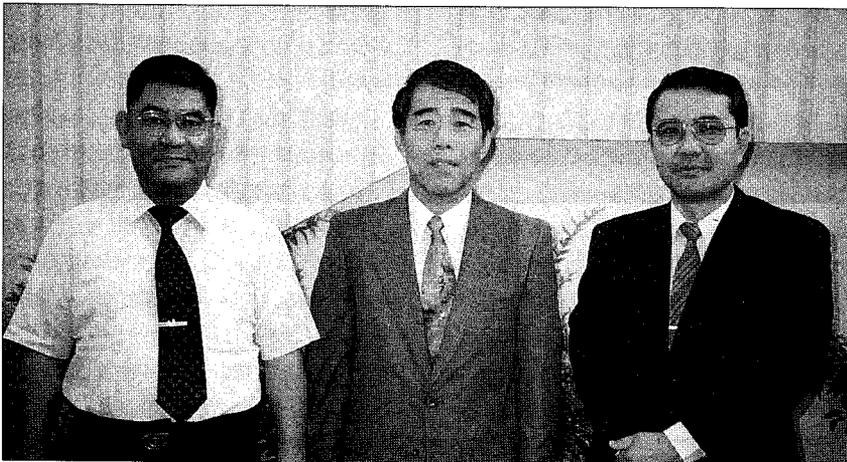
完成となった現在、すべてのわざには時があるとの、主の言葉が身にしみます。今思えば、当時は気持ちだけが焦って十分霊的準備が整っていなかったのでしょうか。ごんまりとした建物ですが、とても機能的で美しい白亜の教会堂です。これからは会員も胸を張って、これがわたしたちの教会ですと家族や友人、知人を招待できるのです。ただただ感謝の一語です。

「主をほめたたえよ。主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。」(詩篇106:1)

これからはこの教会堂をフルに活用して、会員一人一人の霊的成長と家族の進歩を図っていきます。「神の家というのは、生ける神の教会のことであって、それは真理の柱、真理の基礎なのである。」(1テモテ3:15)

わたしたち自身が真理の柱となれるよう、真にわたしたちの生活が教会の土台となれるよう、いっそうの努力を傾注したいと肝に銘じています。(みやら・たけし 監督)

### 首里ワード監督会

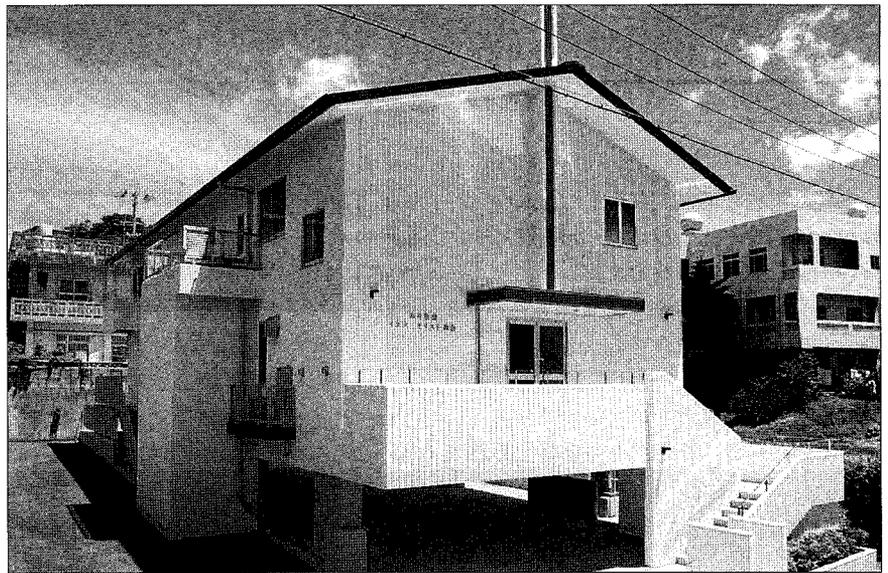


第一副監督  
金城正之

監督  
宮良毅

第二副監督  
宮城真一

所在地 沖縄県那覇市首里石  
嶺町4丁目230-1  
☎098-887-6142  
完成 1995年7月13日  
敷地面積 680.00㎡  
建築面積 194.09㎡  
延床面積 542.15㎡  
鉄筋3階建



## 首里の地に白亜の聖堂



沖縄那覇  
ステーク  
首里ワード  
金城正代

**わ** たしが10年間集っていた教会の集会場は、スーパーの2階にありました。聖餐会せいさんの時間にも、日曜学校の時間にも、下のスーパーから安息

日にはふさわしくない音楽が響きわたっていました。ですから、この新しい教会堂は、教会員や宣教師にとってとても素晴らしい祝福です。

新しい教会堂に初めて足を踏み入れたとき、とても胸が熱くなりました。教会堂の中は、白で統一され、とてもきれいです。また、古い教会にはなかったバプテスマフォントがあります。さらに何よりも素晴らしいと思ったのは、この新しい教会には、体に障害を持つ人や高齢者のためにエレベーター

が設置され、車いすの人のためのトイレも備えられていることです。

ここ1か月の間に3回のバプテスマ会が行われました。神様のたくさんの助けと導きの中で、素晴らしい祝福を得られることを心から感謝しています。日々の生活の中でいろいろな誘惑や試練に遭うことがありますが、新しい教会堂とともに心を新たにし、主の道をまっすぐに進み続けたいと思います。

わたしたちの信仰あかしと証を強めるこの神聖な教会堂が多くの神の子を迎える場所となるように願っています。(きんじょう・まさよ ワード若い女性ローレル会長)

## いじめという壁

—— 勇気を持って打ち明けるなら ——



東京北ステーク  
中野ワード  
齊藤喜宣

**現** 在日本の至る所でいじめに関する問題をたくさん耳にすることがあります。わたしも高校1年生のときにいじめの対象者になったことがあります。

わたしの入学した高校は1学年

1,000人近くいるマンモス校で、スポーツの名門校でしたが、その高校に入学してからすぐの5月初めごろのことです。わたしは授業中、先生によく質問したり、先生の質問に答えたりしてまじめに勉強をしていました。ところがそのような熱心に勉強しているのを「うるさい」といってクラスの数人に30発近く頭や体をなぐられました。わたしは、中学生のときも似たようないじめに遭い、そのときにはなぐり合いになったことがありましたので、同じことを繰り返してはいけなそう思いました。また、中学3年のときのセミ

ナリーで学んだ「忍耐」を思い出したので「絶対にやり返さないぞ」と強く自分に言い聞かせて1発もなぐり返さずにただ我慢し続けました。

その日わたしは家に帰ってから、6人の子供たちのことで忙しい両親に心配をかけたくなかったので黙っていましたが、母がわたしの様子が少しおかしいのに気づき、夜に、父と母とわたしの3人でその日のことについて話をしました。

学校では、指導の先生がわたしに「なぐり返したのか、ほんとうに手は出していないのか」と繰り返し聞いてきました。わたしはなぐった子たちの前で堂々と「なぐっていません」と答えました。その後しばらくの間、なぐられた首や肩が痛いためレントゲンを撮ったり治療に通いました。またわた

しの父は学校に行き、なぐった3人の親たちと指導の先生がたこの問題について話し合ったそうです。

わたしは、このいじめを乗り越えられたのは、両親の助けがあったからだと思います。またわたしが黙っていて、もし母が気がつかずにいたら、そこで終わっていたか、もっといじめが続いたかもしれません。いじめられた子の親はよく「子供が話をしてくれなかったから分からなかった」と口に

します。なぜ子供が話そうとしないのかというと、それはいじめの子たちが「だれにも言うなよ、しゃべったらまたやるからな!」と脅すからです。実際わたしもそう言われました。この言葉をいじめられているときに頭に植え付けられると、親や先生に話したらまたいじめられるという恐怖で口にすることができなくなるのです。

わたしはこのいじめの経験を通して、愛する親や信頼のできる先生に勇気を

持って話すことが、いじめの壁を乗り越えるのに必要なことだと思います。また暴力に対して暴力で対抗するのではなく、福音の中で教えている「堪え忍ぶ」(3ニーファイ27:6)ことは、どのようなときも必要であると学びました。そして、戒めを守ることによって良い解決へと神様が導いてくださることも知ることができました。(さいとう・よしのぶ ステーク宣教師)



## 12月に召された専任宣教師

第195期生 4人

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 小久保じゅん	名古屋S/野並B	岡山伝道部
2. 宇都美紀	福岡M/熊本D/白川B	東京北伝道部
3. 崎田美貴子	福岡M/鹿児島D/都城B	名古屋伝道部
4. 鈴木里絵	名古屋西S/御器所W	沖縄伝道部

左から1—4, S:ステーク, M:伝道部, D:地方部, W:ワード, B:支部

## 海外に召された日本人宣教師

野沢たえ子  
カリフォルニア・オークランド伝道部,  
1995年2月, 東京西S/甲府W



## 役員の変動

1995年11月15日から1995年12月8日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

●東京北伝道部新潟地方部三条支部

新支部長: 吉岡修一

●我孫子ステーキワード

新監督: 小池 博

●名古屋ステーキ名東北ワード

新監督: 志村仁志

## 皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所, 電話番号), 教会での責任(役職名), 所属ユニット名と併せて生年を記入し, 写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また, 掲載までに時間がかかる場合もありますので, ご了承ください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたしますので, 伝道の召しを受け取り次第, 『聖徒の道』編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕, 伝道部名, 召された月を明記)

◎あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275